

福島県文化財センター白河館

年報 2 0 1 6

～平成 2 7 年度実績～

公益財団法人福島県文化振興財団

福島県文化財センター白河館

年報2016の発刊によせて

館長 菊池 徹夫

まほろんは、2016（平成28）年の7月に開館15周年を迎えました。県民の皆様の、まほろんに対するご理解・ご支援に改めて感謝申し上げます。

まほろんは、“ふくしま”の豊かな自然と私たちの祖先の営み、そこで育まれた文化財の大切さを伝える施設として2001年に開館しました。とりわけこの間、2011年に起こった原発事故を含む東日本大震災を考える時、未来の“ふくしま”に生きる人々への贈り物として、このまほろんを大事に継承し、より多くの方々に活用していただけるよう、努力していかなければならないと思いを新たにしています。

さて、2015年度には、開館以来の入館者数45万人を達成しました。この年、年間の入館者数は27,227名を数え、学校に出向いて体験学習を実施する「おでかけまほろん」など館外活動の利用者の方々を含めると、2015年度の総利用者数は、32,695名と、震災後の落ち込みから着実に回復してきています。

2014年度から新たにスタートした「ふくしま復興展」としては、2015年度には、「古代の文字―出土文字資料から見たふくしま―」と「よみがえる文化財―震災からの救出活動と再生への取り組み―」という2つの企画展を開催しました。特に、「よみがえる文化財」では、被災文化財の救出に奔走した人々やその作業について、4年半の取り組みの一部を紹介し、文化財を守ることを意味を考えていただく機会としました。

さらに、県内外の重要文化財をテーマとした「指定文化財展」では、「奥州藤原氏の時代とふくしま」を開催しました。世界遺産「平泉」の出土品と、多彩な貿易陶磁器を含む福島県会津坂下町「陣が峯城跡」の県指定重要文化財とを対比しながら、奥州藤原氏との関わりやその築城の謎に迫る企画展を行いました。

また、専門的調査研究として、2014年度から5ヵ年計画で、まほろん収蔵の土器などに付着した炭化物を用いた放射性炭素年代測定と炭素・窒素安定同位体比分析の作業を開始しました。この測定・分析の一部結果については、収蔵資料展「縄文土器の年代―その古さを読み解く―」において報告しました。いずれ最終年度には、研究報告書としてその成果を発表する予定です。

その他、季節ごとのイベントにも工夫を凝らし、楽しく体験活動を行える機会を増やしたり、地域の研究機関（郡山女子大学短期大学部）と連携して最新の発掘成果を展示し、解説したりと、様々な活動をしてまいりました。

今後とも、まほろんを育ててくださいますよう皆様のご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。



入館者45万人到達



まほろん感謝デー「プレゼント抽選会」

目 次

第1章 まほろんの概要	9 その他
1 まほろんの業務	1. 年報2015の発行
2 まほろんの沿革	2. 運営協議会の開催
3 平成27年度の主な行事	3. 博物館学学外実習
4 東日本大震災の影響	4. 被災ミュージアム再興事業
	5. 他機関との連携
第2章 管理業務の実施状況及び利用状況	第3章 平成27年度の組織と管理運営費
1 利用状況	1 組織
1. 利用者数	2 管理運営費
2. 入館者数の内訳と傾向	
2 維持管理に関する業務	第4章 まほろん施設の概要
1. 建築物・設備・環境衛生・ 外構等保守管理業務	第5章 まほろんの条例・規則
2. 施設・設備等の修繕状況	1 福島県文化財センター白河館条例
3. 備品・物品管理業務	2 福島県文化財センター白河館条例 施行規則
3 文化財の収蔵・保管に関する業務	まほろんの利用案内
1. 収蔵資料	
2. 資料貸し出し	
3. 写真掲載等承認	
4. 資料閲覧	
4 文化財の活用に関する業務	
1. 常設展示	
2. 企画展示	
3. 講演会等	
4. 体験学習	
5 文化財に関する情報発信	
1. ホームページによる情報発信	
2. データベースによる情報提供	
3. まほろん通信の発行	
6 文化財に関する研修事業	
1. 研修実施の概要	
7 文化財の活用に関する調査研究	
1. 放射性炭素年代測定と炭素窒素 安定同位体比分析	
2. 研究紀要	
8 ボランティアの運営	
1. 募集	
2. 登録	
3. 活動内容	
4. 受け入れ体制	

第1章 まほろんの概要

1 まほろんの業務

まほろん（福島県文化財センター白河館）は、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県が設置した文化施設で、平成13年7月に開館し、平成27年7月には開館して14年が経過した。

まほろんは、福島県教育委員会が発掘調査した遺跡で出土した遺物や記録写真、図面などの資料を収蔵・保管し、それを展示・体験学習等に活用すると共に、文化財を担当する市町村職員等の文化財研修、文化財に関する情報発信等の役割を担っている。

福島県では、開館から平成17年度まで財団法人福島県文化振興事業団に業務を委託していたが、平成18年度から指定管理者制度を導入して、管理の業務を行う法人等を広く公募し、平成18年度から平成20年度まで（第1期）、平成21年度から平成25年度まで（第2期）、財団法人福島県文化振興財団（平成24年10月に名称変更）が管理業務を行った。

平成26年度から平成30年度まで（第3期）は、公益財団法人福島県文化振興財団が指定管理者として管理業務を行っている。

指定管理者が行う業務は、以下のとおりである。
○考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。

○文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。

○文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。

○文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。

○文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。

○考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。

○白河館の維持補修及び管理に関すること。

○上記の他に、福島県教育委員会が別に定める業務。

まほろんは貴重な文化財を様々な形で活用する施設であり、文化財の復元研究や体験学習活動を全国に先駆けて実施してきた。また、「遺跡から学ぶ自然と人間のかかわり」をメインテーマとして、“見て・触れて・考え・学ぶ”体験型ミュージアムを目指している。

2 まほろんの沿革

平成6年度

福島県文化財保護審議会が、「福島県文化財センター（仮称）整備基本構想報告書」を答申

平成8年度

「福島県文化財センター白河館（仮称）基本計画」策定

平成11年11月

施設愛称を公募し「まほろん」に決定

平成13年3月27日

福島県文化財センター白河館条例及び施行規則制定

平成13年4月1日

福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託

平成13年7月15日

福島県文化財センター白河館開館記念式典

平成16年2月28日 入館者10万人到達

平成18年4月1日

「福島県文化財センター白河館指定管理者」として福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託（平成21年3月31日まで）

平成19年4月14日 入館者20万人到達

平成21年4月1日

「福島県文化財センター白河館指定管理者」として福島県より財団法人福島県文化振興事業団に管理運営委託（平成26年3月31日まで）

平成22年4月25日 入館者30万人到達

平成22年9月10日

開館以来、館長を務めた藤本強館長が急逝。平成23年3月31日まで館長職を福島県文化振興事業団富田孝志理事長が兼務

平成23年3月11日

東日本大震災発生。館内に被災箇所あり。4月30日まで臨時休館
 平成23年4月1日 菊池徹夫新館長就任
 平成23年5月1日
 震災被害により使用できなくなった一般収蔵庫及び野外展示施設を除き、再開館
 平成24年4月15日
 野外展示施設修繕完了、使用を再開
 平成24年5月3日
 一般収蔵庫修繕完了、使用を再開
 平成24年5月19日
 開館10周年記念事業を実施
 平成26年2月8日 入館者40万人到達
 平成27年12月5日 入館者45万人到達

3 平成27年度の主な行事

平成27年2月7日～5月10日
 収蔵資料展「磐越自動車道の遺跡―会津盆地の弥生時代―」
 平成27年5月2日～6日
 GWまほろんまつり
 平成27年5月30日～7月5日
 ふくしま復興展Ⅰ「古代の文字―出土文字資料から見たふくしま―」
 平成27年7月25日～9月27日
 指定文化財展「奥州藤原氏の時代とふくしま」
 平成27年7月26日 まほろん夏まつり
 平成27年9月19日～23日 まほろんを描こう



まほろん夏まつり「紙芝居体験」

平成27年10月17日～12月6日
 ふくしま復興展Ⅱ「よみがえる文化財―震災からの救出活動と再生への取り組み―」
 平成27年11月3日 まほろん秋まつり
 平成27年12月6日 まほろん感謝デー
 平成28年1月17日 まほろん双六大会
 平成28年2月14日 まほろん冬まつり
 平成28年3月5日～5月8日
 収蔵資料展「縄文土器の年代―その古さを読み解く―」



「奥州藤原氏の時代とふくしま」ポスター

4 東日本大震災の影響

福島県教育委員会は、東日本大震災により被災した歴史博物館の収蔵資料を保管するための文化財仮保管施設を当館の敷地内に設置している。平成27年度は5棟目の仮保管施設が設置され、施設5棟の総延床面積は約900平方メートルとなった。

本施設には、福島県被災文化財等救援本部により救出された、富岡町歴史民俗資料館・大熊町民俗伝承館・双葉町歴史民俗資料館の収蔵資料が保管されている。

第2章 管理業務の実施状況及び利用状況

1 利用状況

1. 利用者数

平成27年度の総利用者数は、32,695名（平成26年度29,910名）で、前年度に比べ2,785名の増加となった。入館者数は、27,227名（平成26年度27,166名）、館外利用者数は、5,468名（平成26年度2,744名）であった。

入館者数については、前年度に比べ団体入館者が減少したものの、個人利用者が61名増加した。特に、ゴールデンウィークや季節毎に開催する「まほろんイベント」の延べ入館者数は、4,877名（平成26年度3,032名）となり、前年度に比べ大きく増加した。

館外利用については、小中学校等の教育機関を対象とする「おでかけまほろん」を44箇所、公民館等の生涯学習施設を対象とする「まほろん出前講座」を6箇所、県内諸地域の住民を対象とする「まるごとまほろん」を7箇所で開催した。これらの人数は3,139名（平成26年度2,274名）となり、前年度から865名増加した。また、福島県立図書館で行った移動展「磐越自動車道の遺跡―会津盆地の弥生時代―」は2,094名となり、その他の研修会等を含めた館外利用者の総数は前年度に比べ、2,724名増加した。

月別入館者数

平成27年度	年齢別属性		地域別属性		入館者	館外利用者	総利用者数 (合計)	平成26年度	
	幼小中高	一般	県内	県外				入館者	館外利用者
4月	1,216	863	1,903	176	2,079	341	2,420	2,489	321
5月	1,544	2,011	2,826	729	3,555	352	3,907	3,740	295
6月	1,487	1,164	2,487	164	2,651	2,229	4,880	3,362	237
7月	1,409	1,528	2,322	615	2,937	193	3,130	3,259	139
8月	859	1,510	1,617	752	2,369	175	2,544	2,696	94
9月	982	2,077	2,745	314	3,059	129	3,188	2,110	394
10月	850	1,427	2,002	275	2,277	1,527	3,804	2,541	630
11月	558	1,121	1,525	154	1,679	431	2,110	1,848	457
12月	815	1,438	2,062	191	2,253	46	2,299	1,145	67
1月	403	770	1,078	95	1,173	26	1,199	1,118	44
2月	602	1,117	1,568	151	1,719	0	1,719	1,528	38
3月	366	1,110	1,247	229	1,476	19	1,495	1,330	28
合計	11,091名	16,136名	23,382名	3,845名	27,227名	5,468名	32,695名	27,166名	2,744名

2. 入館者数の内訳と傾向

入館者数は、27,227名（平成26年度27,166名）となった。

（1）地域別利用状況

入館者の地域別利用者は、県内が23,382名（平成26年度23,700名）で85.9%（平成26年度87.2%）、県外が3,845名（平成26年度3,466名）で14.1%（平成26年度12.8%）であった。東日本大震災以降では、県外利用者が最多となった。県内の入館者23,382名のうち、白河市内からの入館者は11,034名で過去最高の割合となる40.5%（平成26年度35.2%）を記録した。

（2）年齢別利用状況

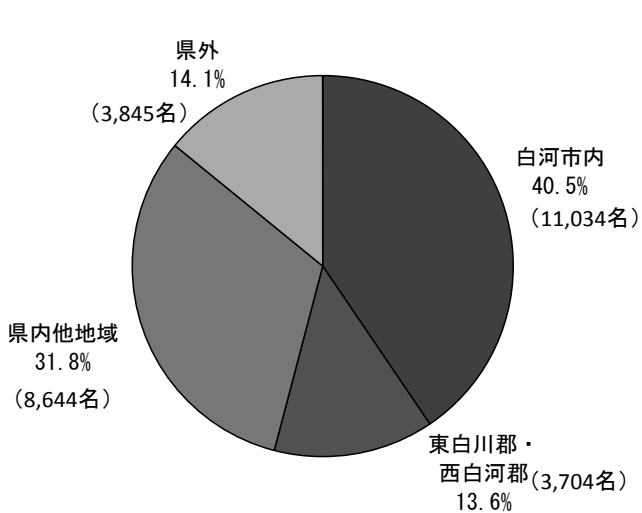
幼児・小中・高校生が11,091名で、入館者全体の40.7%（平成26年度38.6%）、一般の入館者数は16,136名で、入館者全体の59.3%（平成26年度61.4%）となり、幼児・小中・高校生の入館者の割合が増加した。

(3) 団体利用状況

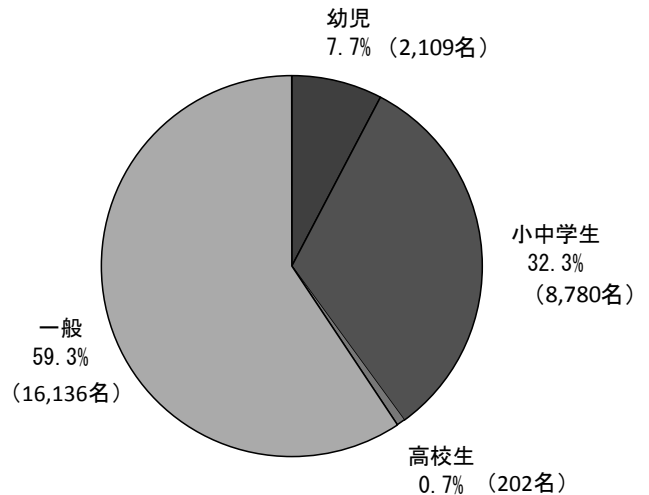
入館した団体数は 234 団体（平成 26 年度は 270 団体）、団体による来館者数は 8,988 名（平成 26 年度 10,358 名）となり、前年度から

1,370 名減少した。

団体利用のうち、学校関係は 6,013 名（平成 26 年度 6,715 名）で、前年度から 702 名減少した。



地域別構成比



年齢別構成比

団体利用者一覧

団 体			平成 27 年度														平成 26 年度
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	合計	
学校関係	幼稚園・保育園	園数		1	1			1		1					4	6	
		来館者数		28	29			32		24					113	245	
	小学校	学校数	15	8	23	13		8	10			7	4	1	89	104	
		来館者数	837	337	1,227	749		422	632			267	109	73	4,653	5,503	
	中学校	学校数	1	2			1	2							6	4	
		来館者数	182	117			52	96							447	220	
	高等学校	学校数		1						1					2	3	
		来館者数		30						18					48	90	
	養護学校	学校数						1							1	2	
		来館者数						13							13	38	
	大学	学校数	1	1			1	1	1	1		1		1	8	2	
		来館者数	72	35			41	9	16	9		23		10	215	22	
	幼小中高 P T A (保護者のみ)	学校数													0	0	
		来館者数													0	0	
	幼小中高 P T A (親子レク等)	学校数		1	4	1		2	2						10	8	
		来館者数		70	199	53		124	78						524	597	
生涯学習関係	研究会	会数			1	1		1							3	5	
		来館者数			9	50		80							139	249	
	子ども会	会数				2	1								3	6	
		来館者数				147	57								204	213	
	公民館等	館数			3	4	3	7	2	4					23	16	
		来館者数			62	137	86	200	58	79					622	341	
社会福祉関係	福祉施設・デイ ケアサービス	団体数		3	4	2	3		7	2	2		1	1	25	23	
	来館者数		51	78	46	55		126	33	30		9	12	440	406		
文化団体関係	資料館等	館数		2					1						3	3	
		来館者数		94					30						124	76	
	歴史研究	団体数					2							1	3	5	
		来館者数					13							16	29	87	
行政機関関係	県・市町村・ 教委・審議会等	団体数					4	3	4	1	2				14	11	
		来館者数					181	42	96	25	42				386	469	
その他	その他	団体数	2	7	2	4	2	4	7	7	1		1	3	40	72	
		来館者数	34	167	47	59	23	335	116	125	73		20	32	1,031	1802	
合計	団体数	19	26	38	27	17	30	34	17	5	8	6	7	234	270		
	団体来館者数	1,125	929	1,651	1,241	508	1,353	1,152	313	145	290	138	143	8,988	10,358		
総来館者数		2,079	3,555	2,651	2,937	2,369	3,059	2,277	1,679	2,253	1,173	1,719	1,476	27,227	27,166		
団体利用者の割合（％）		54%	26%	62%	42%	21%	44%	51%	19%	6%	25%	8%	10%	33%	38%		

2 維持管理に関する業務

1. 建築物・設備・環境衛生・外構等保守管理業務

「福島県文化財センター白河館の維持管理に係る業務仕様書」に則し、下記のとおり実施した。

- (1) 空調設備点検業務
常光サービス（株）
- (2) 消防用設備等保守点検業務
大槻電気通信（株）
- (3) 簡易型昇降機及びリフター保守点検業務
（株）ハイン
- (4) 自動ドア保全業務
（株）明成エンジニアリング
- (5) 自家用電気工作物保安管理業務
（一財）東北電気保安協会
- (6) 展示用及び講堂用 AV 機器保守点検業務
（株）オリエンタル・エージェンシー
- (7) 植栽管理業務
（株）信也園
- (8) 清掃業務
（株）タイセークリーン
- (9) 警備業務
ALSOK 福島（株）
- (10) 電話設備等点検業務
（株）ユニテック
- (11) 除雪業務
（有）猪越土木

2. 施設・設備等の修繕状況

- (1) 平成 27 年 5 月 15 日
館長室空調室内機修繕
- (2) 平成 27 年 6 月 22 日
公用車キャラバンマフラー修繕
- (3) 平成 27 年 6 月 24 日
自動ドア修繕
- (4) 平成 27 年 8 月 8 日
給水ポンプ修繕
- (5) 平成 27 年 8 月 24 日
消防用設備等修繕
- (6) 平成 27 年 9 月 18 日
映像再生機器修繕
- (7) 平成 27 年 9 月 18 日
常設展示室空調室内機修繕

- (8) 平成 27 年 10 月 10 日
特別展示室展示ケース修繕
- (9) 平成 27 年 12 月 25 日
空調設備修繕
- (10) 平成 28 年 2 月 12 日
瓦棒葺き屋根カバーずれ直し修理
- (11) 平成 28 年 2 月 28 日
野外展示物「前方後円墳」修繕
- (12) 平成 28 年 2 月 28 日
野外展示物「奈良時代の家」修繕
- (13) 平成 28 年 3 月 24 日
職員駐車場屋外灯ランプ取替
- (14) 平成 28 年 3 月 25 日
非常用自家発電機保全整備



野外展示物「前方後円墳」

3. 備品・物品管理業務

基本協定書別表「管理財産一覧」について適正に管理した。

3 文化財の収蔵・保管に関する業務

1. 収蔵資料

	遺 物	写 真	図 面	地図・カード類	無形の文化財関連	合計(箱)
一般収蔵庫	44,680	3,083	1,078	520	10	49,371
特別収蔵庫	518					518
合計	45,198	3,083	1,078	520	10	49,889

※1 一般収蔵庫の収容能力は最大 66,000 箱

※2 特別収蔵庫には保存処理済みの木質遺物・金属製遺物を収納

2. 資料貸し出し

(1) 遺物 (24件)

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量(点)
平 27.4.1～平 28.3.31	人間文化研究機構国立歴史民俗博物館(常設展示)	天栄村桑名邸遺跡出土縄文土器	3
平 27.4.1～平 28.3.31	独立行政法人国立科学博物館(常設展示)	飯館村日向南遺跡ほか出土縄文土器	8
平 27.4.1～平 28.3.31	東北電力株式会社原町火力発電所	南相馬市鳥打沢 A 遺跡出土土師器ほか	24
平 27.4.1～平 28.3.31	郡山市教育委員会(大安場史跡公園常設展示)	郡山市弥明遺跡出土土器	5
平 27.4.1～平 27.12.2	磐梯町磐梯山慧日寺資料館(テーマ展「縄文文化の十字路・法正尻遺跡」)	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器ほか	31
平 27.4.1～平 28.3.31	須賀川市立博物館(常設展示)	須賀川市梅田横穴古墳群出土須恵器	1
平 27.4.1～平 28.3.31	福島県立博物館(常設展示)	桑折町平林遺跡出土旧石器ほか	1,244
平 27.4.1～平 27.5.27	福島県立博物館(「ふるさとの考古資料 5【富岡町】遺跡探訪」)	富岡町上本町 F 遺跡かわらけほか	77
平 27.4.1～平 28.3.31	白河市歴史民俗資料館(常設展示「白河の歴史と文化」)	白河市一里段 A 遺跡出土土器ほか	5
平 27.7.2～平 27.9.27	仙台市富沢遺跡保存館(特別企画展「3 万年前の旧石器ライフ」)	楡葉町大谷上ノ原遺跡出土旧石器ほか	75
平 27.6.4～平 27.7.2	福島県立図書館(移動展「会津盆地の弥生時代」)	会津坂下町能登遺跡出土弥生土器ほか	27
平 27.6.9～平 28.3.31	福島県立博物館(「ふるさとの考古資料 6【飯館村】遺跡探訪」)	飯館村上ノ台 A 遺跡出土縄文土器ほか	580
平 27.7.7～平 27.9.30	奥会津博物館(企画展「奥会津の縄文時代」)	下郷町南倉沢遺跡出土資料ほか	9
平 27.7.8～平 27.9.27	福島県立博物館(企画展「被災地からの考古学 1～福島県浜通り地方の原始・古代」)	いわき市タタラ山遺跡須恵器ほか	315
平 27.7.7～平 27.9.12	大安場史跡公園(企画展「縄文の風景～ハート形土偶の生まれた時代～」)	三春町柴原 A 遺跡土偶ほか	5
平 27.7.10～平 27.9.4	須賀川市立博物館(企画展「ハックツ！すかがわ 考古学の世界」)	須賀川市一斗内遺跡土偶ほか	242
平 27.9.29～平 27.12.10	福島県立博物館(企画展「相馬中村藩の人びと」)	浪江町中平遺跡出土大堀相馬焼びんだらい ほか	56
平 27.9.30～平 28.1.20	新潟市文化財センター(史跡古津八幡山遺跡 弥生の丘展示館 企画展「邪馬台国の時代 1～東北部(会津)の世界」)	会津若松市和泉遺跡出土弥生土器ほか	98
平 27.10.1～平 28.3.31	福島県立博物館(移動展「被災地からの考古学 1」)	いわき市タタラ山遺跡須恵器ほか	71
平 27.10.21～平 27.12.18	大安場史跡公園(企画展「古墳発見 25 周年記念 大安場古墳の世界」)	会津若松市一ノ堰 B 遺跡弥生土器ほか	29
平 27.11.10～平 27.12.22	公益財団法人福島県文化振興財団(歴史再発見事業「歴史に学ぶ！ふくしまの記憶～人と木のかかわり～」)	楡葉町大谷上ノ原遺跡磨製石器ほか	36
平 28.1.7～平 28.3.31	横浜市歴史博物館(企画展「称名寺貝塚」)	本宮市高木遺跡出土土器ほか	3
平 28.1.15～平 28.2.16	郡山市文化・学び振興公社(企画展「古墳時代の郡山はどこまで分かったかー土器・墓・ムラから探るー」)	小野町本飯豊遺跡出土鋤鍬先ほか	4
平 28.3.29～平 28.3.31	磐梯町磐梯山慧日寺資料館(テーマ展「縄文文化の十字路・法正尻遺跡」)	磐梯町法正尻遺跡出土縄文土器ほか	31
		合 計	2,979

(2) 模型及びレプリカ (7件)

貸出期間	貸 出 先	資 料 名	数量(点)
平 27.4.1～平 28.3.31	福島県立博物館(常設展示)	梵鐘復元品ほか	10
平 27.4.1～平 28.3.31	磐梯町磐梯山慧日寺資料館(テーマ展「縄文文化の十字路・法正尻遺跡」)	磐梯町法正尻遺跡復元地形模型ほか	11
平 27.4.1～平 28.3.31	福島県立博物館(常設展ポイント展「約束の音色～聖武と磐麻呂」)	玉川村江平遺跡出土木簡複製品、横笛復元品	1
平 27.7.1～平 27.9.9	新潟市歴史博物館(企画展「古墳ワールド！蒲原の古墳」)	会津大塚山古墳三角縁神獣鏡復元品	1
平 27.9.25～平 27.12.10	福島県立博物館(企画展「相馬中村藩の人びと」)	焼塩壺模型	1
平 27.10.21～平 27.12.18	大安場史跡公園(企画展「古墳発見 25 周年記念 大安場古墳の世界」)	会津大塚山古墳三角縁神獣鏡復元品ほか	2
平 27.11.10～平 27.12.22	公益財団法人福島県文化振興財団(歴史再発見事業「歴史に学ぶ！ふくしまの記憶～人と木のかかわり～」)	磨製石斧復元品ほか	15
		合 計	41

3. 写真掲載等承認 (37件)

承認日	申請者(掲載刊行物等)	資料名	数量(点)
平 27.5.26	歴史春秋社(『ムック白河』)	まほろん体験活動写真ほか	4
平 27.5.26	館林市(『館林市史通史編 1』)	「まほろんガイド」軍団兵士写真	2
平 27.6.8	仙台市富沢遺跡保存館(企画展「3 万年前の旧石器ライフ」図録)	楡葉町大谷上ノ原遺跡出土土器写真	75
平 27.6.8	鬼灯書籍株式会社(『仮面の土偶』)	三春町柴原 A 遺跡ほか出土土偶図版	2
平 27.6.12	福島県立博物館(企画展「被災地からの考古学 1～福島県浜通り地方の原始・古代」パネル・図録)	いわき市大久保遺跡住居跡写真ほか	98
平 27.6.8	福島県立博物館(テーマ展「ふるさとの考古資料 6【飯館村】遺跡探訪」写真パネル	飯館村松ヶ平 A 遺跡全景写真ほか	34

第2章 管理業務の実施状況及び利用状況

平 27.7.23	朝日新聞出版（『週刊マンガ日本史 100 号 仁徳天皇』）	古墳時代のかまど写真	1
平 27.7.30	個人（NPO法人三内丸山縄文発信の会ホームページ）	常設展示ミニ復興展展示風景ほか	3
平 27.7.30	個人（学術誌掲載論文）	郡山市徳定 A 遺跡人面付土器写真	1
平 27.7.30	三春町歴史民俗資料館（特別展「蒲生氏の時代～暮らしの中の天下統一～」パネル・図録）	郡山市木村館跡遺構写真	2
平 27.8.28	株式会社 BAB ジャパン（『月刊秘伝』）	「多賀城に向かう軍団兵士と弓を射る兵士」復元人形写真	1
平 27.9.4	相馬市教育委員会（『相馬市史第 4 巻 原始・古代』）	相馬市中丸東遺跡遺構写真・図版ほか	15
平 27.9.18	福島県立博物館（企画展『相馬中村藩の人びと』図録ほか）	浪江町中平遺跡出土大堀相馬焼びんだらい写真ほか	29
平 27.9.18	個人（ホームページ動画）	縄文の家ほかイメージ映像	1
平 27.9.18	新潟市文化財センター（史跡古津八幡山遺跡企画展「邪馬台国の時代1ー東北部（会津）の世界ー」パネル）	会津若松市和泉遺跡遺構写真ほか	80
平 27.10.7	山形県埋蔵文化財センター（山形県埋蔵文化財センター参観デー展示パネル）	新地町向田 A 遺跡出土土器写真ほか	3
平 27.10.16	小学館（『日本美術全集 1 日本美術創世紀』）	磐梯町法正正足遺跡出土縄文土器写真	5
平 27.10.19	大安場史跡公園（企画展「古墳発見 25 周年記念 大安場古墳の世界」パネル・パンフレット）	会津若松市一ノ堰 B 遺跡遠景写真ほか	6
平 27.10.27	株式会社テレビ朝日（バラエティー番組）	常設展示「暮らしのうつかりー奈良・平安時代の食卓ー」複製・複製写真	2
平 27.11.9	公益財団法人福島県文化振興財団（企画展「ふくしまの復興一人と木のかかわりー」展示パネル）	須賀川市関根 D 遺跡 15 号土坑出土炭化栗ほか	15
平 27.11.6	山川出版社（『中高一貫校向 日本史』）	磐梯町法正正足遺跡出土深鉢写真	1
平 27.11.5	個人（学術雑誌掲載論文）	南相馬市赤柴遺跡遺構写真	2
平 27.12.21	横浜市歴史博物館（企画展「称名寺貝塚」図録）	本宮市高木遺跡出土土器ほか	2
平 27.12.22	ガッチ株式会社（「Google Cultural Institute」）	浪江町中平遺跡出土土瓶写真	2
平 28.1.4	磐梯町（『磐梯町歴史的風致維持向上計画』）	磐梯町法正正足遺跡出土土器写真	1
平 28.1.13	郡山市文化・学び振興公社（郡山市文化財企画展「古墳時代の郡山はどこまで分かったかー土器・墓・ムラから探るー」パネル・パンフレット）	郡山市正直 A 遺跡 1 号祭祀跡写真	1
平 28.1.22	有限会社スタジオジップ（歴史ムック『一生に一度は行きたい！四季に映える日本の名城』）	室町時代の館写真	1
平 28.1.29	秋田市教育委員会（秋田城跡歴史資料館展示解説用グラフィック）	軍団兵士画像	2
平 28.2.4	富岡町歴史民俗資料館（企画展「富岡町の成り立ちと富岡・夜の森」同時開催「富岡町震災遺産展～複合災害とこれから～」パンフレット）	製鉄作業風景模型写真	1
平 28.2.15	青森県埋蔵文化財調査センター（『青森県埋蔵文化財調査センター研究紀要』）	小野野西田 H 遺跡出土磨製石斧写真	1
平 28.2.16	明治図書出版株式会社（『よくわかる国語の学習 3 年』）	軍団兵士画像	1
平 28.2.25	井戸尻考古館（『坂上遺跡出土土偶 重要文化財指定記念講演録集』）	本宮市高木遺跡出土土偶実測図および拓本	2
平 28.2.25	棚倉町教育委員会（『わたしたちのまち たなぐら（改訂版）』）	常設展示「昭和 40 年代ブース」・「江戸時代ブース」写真	2
平 28.3.4	株式会社童夢（『楽しい調べ学習シリーズ 博物館のひみつ』）	特別収蔵庫写真	1
平 28.3.10	株式会社スパイスファクトリー（TBS テレビ放映番組）	三角縁神獣鏡復元品写真	1
平 28.3.16	株式会社ジャストシステム（小学生向け通信教育『スマイルゼミ』）	磐梯町法正正足遺跡出土縄文土器写真ほか	2
平 28.3.23	株式会社英俊社（『学校別入試問題集』）	天栄村桑名邸遺跡出土縄文土器写真	1
		合 計	403

4. 資料閲覧

（1）遺 物（20 件）

閲覧日	閲覧者（閲覧目的）	資料名	数量（点）
平 27.5.28	福島県立博物館（テーマ展の事前調査）	飯館村松ヶ平 A 遺跡出土石製品ほか	627
平 27.6.2	県外研究者（調査研究）	浪江町田子平遺跡出土縄文土器	58
平 27.6.9	福島県立博物館（企画展の事前調査）	いわき市タタラ山遺跡須恵器 ほか	328
平 27.6.23	須賀川市立博物館（企画展の事前調査）	須賀川市一斗内遺跡土偶 ほか	23
平 27.6.25	大安場史跡公園（企画展の事前調査）	三春町柴原 A 遺跡土偶 ほか	2
平 27.6.27	県内研究者（調査研究）	磐梯町法正正足遺跡縄文土器深鉢	2
平 27.7.19	県外研究者（調査研究）	郡山市徳定 A 遺跡出土人面土器	1
平 27.7.3	県外研究者（調査研究）	白河市一里段 A 遺跡石器 ほか	36
平 27.7.15	福島県立博物館（企画展の事前調査）	天栄村桑名邸遺跡縄文土器	46
平 27.9.12	大安場史跡公園（企画展の事前調査）	会津若松市一ノ堰 B 遺跡弥生土器 ほか	13
平 27.9.19	県内研究者（調査研究）	白河市筑内古墳馬具	41
平 27.10.15	県内研究者（調査研究）	南相馬市鳥井沢 B 遺跡羽口ほか	55
平 27.10.18	県内研究者（調査研究）	郡山市徳定 A 遺跡出土人面土器ほか	9
平 27.10.23	県外研究者（調査研究）	二本松市田地ヶ岡遺跡縄文土器ほか	29
平 27.12.1	県内研究者（調査研究）	白河市一里段 A 遺跡石器 ほか	525
平 27.12.5	県外研究者（調査研究）	会津若松市一ノ堰 B 遺跡弥生土器 ほか	18
平 28.1.16	県内研究者（調査研究）	磐梯町法正正足遺跡磨製石斧ほか	2
平 28.1.19	県外研究者（調査研究）	福島市獅子内遺跡石器ほか	382
平 28.1.21	県外研究者（調査研究）	飯館村松ヶ平 A 遺跡土器ほか	369
平 28.3.23	県外研究者（調査研究）	郡山市荒小路遺跡石皿ほか	15
		合 計	2,581

（2）復元品・その他

閲覧日	閲覧者（閲覧目的）	資料名	数量（点）
平 27.6.30	県外研究者（調査研究）	矢吹町白山 C 遺跡等記録類 他	4
平 27.9.12	大安場史跡公園（企画展の事前調査）	三角縁神獣鏡復元品	1
		合 計	5

4 文化財の活用に関する業務

1. 常設展示

(1) 構成

1) プロムナードギャラリー

- ①「がんばろう！浜通り！」
- ②「探してみよう福島の文化財」
- ③「まほろん周辺の文化財」(パネル展示)
- ④「ふくしまの宝物」

2) 常設展示室

- ①「めぐみの森」
- ②「暮らしのうつりかわり」
〈昭和40年代〉〈江戸時代〉〈生と死〉
〈鎌倉・室町時代〉〈奈良・平安時代〉
〈古墳時代〉〈弥生時代〉〈縄文時代〉
〈旧石器時代〉
- ③「暮らしをささえた道具たち」
サブコーナー〈まほろんビデオBOX〉
- ④「遺跡を掘る」
サブコーナー〈話題の遺跡〉
- ⑤「みんなの研究ひろば」
- ⑥「クイズ福島歴史発見」
- ⑦「のぞいてみよう福島の遺産」

⑧「話題の遺跡」

⑨「しらかわ歴史名場面」

⑩映像展示

「ふくしまの文化財ーいのちのかたちー」

(2) 展示替え

平成27年度の展示替えは、別表一覧のとおりである。年度当初に、作成した展示計画案をもとに、企画展事業や他の事業等との関連を持たせた内容とした。

1) しらかわ歴史名場面

「しらかわ歴史名場面」は、来館者に白河地域の文化財を親しんでもらうためのコーナーである。白河市に限らず、対象を古代白河郡内の市町村に広げ、歴史場面を象徴する資料を紹介している。

本年度は、3遺跡の考古資料を展示した。

◆石川町五反分D遺跡

古代白河郡内のひとつ石川町に所在する縄文時代から平安時代の集落遺跡で、竪穴住居跡や土坑が発見されているほか、縄文時代早期後半の関東系の土器片が出土している。

展示替え一覧

コ ー ナ ー	タ イ ト ル	開 催 期 間	所蔵者	備 考
しらかわ歴史名場面	石川町五反分D遺跡	平 27. 4. 1～7.25	福島県教育委員会	
	石川町達中久保遺跡	平 27. 7.26～12.27	福島県教育委員会	
	白河市(旧大信村)赤坂裏A遺跡	平 28. 1. 6～3.31	福島県教育委員会	
みんなの研究ひろば	1 ミニ文化財復興展 「富岡町・双葉町・大熊町」	平 27. 4. 1～平 28. 3.31	富岡町・大熊町・双葉町	3回の展示替え
	2 博物館実習の成果(1)	平 27. 4. 1～9.18	福島県教育委員会	平成26年度からの継続、玉川村栗木内遺跡
	博物館実習の成果(2)	平 27. 9.19～平 28. 3.31	福島県教育委員会	小野町堂田A遺跡
	3 まほろん森の塾作品展	平 27. 7.26～9.18	森の塾生	塾生が作成したミニはにわ、編み組細工の展示
話題の遺跡	南相馬市萩原遺跡(1)	平 27. 4. 1～6.30	福島県教育委員会	
	南相馬市萩原遺跡(2)	平 27. 7. 1～12.27	福島県教育委員会	
	南相馬市大富西畑遺跡	平 28. 1. 6～3.31	福島県教育委員会	
ふくしまの宝物	石川町大日原C遺跡	平 27. 4. 1～8. 3	福島県教育委員会	
	喜多方市(旧塩川町)荒屋敷遺跡	平 27. 8. 4～平 28. 1.11	福島県教育委員会	
	矢吹町弘法山古墳	平 28. 1.13～3.31	福島県教育委員会	
がんばろう！浜通り！	飯館村羽白C遺跡ほか (毎月展示替え)	平 27. 4. 1～平 28. 3.31	福島県教育委員会	平成23年度からの継続。浜通り地方の土器を展示して復興を祈願

◆石川町達中久保遺跡

石川町に所在する奈良・平安時代の大規模な集落遺跡である。竪穴住居跡内から出土した墨書土器などを通して、遺跡の性格や古代の文字について紹介した。

◆白河市赤坂裏A遺跡

白河市（旧大信村）に所在する奈良・平安時代の集落遺跡で、掘立柱建物跡や竪穴住居跡が発見されている。竪穴住居跡内から出土した墨書土器を中心に、同時代の代表的な土師器を展示した。

2) みんなの研究ひろば

「みんなの研究ひろば」は、一般県民の歴史や文化財等に関する一般県民の研究を紹介するコーナーである。児童・生徒、教育関係者の調査研究成果を積極的に展示し、併せて当館が行っている実技講座や復元研究の成果も展示している。

◆ミニ文化財復興展

原子力災害に伴い白河館に仮保管されている富岡町・大熊町・双葉町の資料を展示し、3回の展示替えを行った。

◆博物館実習の成果品

例年、9月に実施している博物館実習の成果として、小野町堂田A遺跡から出土した資料を題材に、実習生によるミニ展示を行った。

◆まほろん森の塾作品展示

まほろん森の塾において、実施した活動の中で、制作した作品を展示した。7月26日（日）のまほろん夏まつり開催中に、塾生による展示解説会を開き、活動の成果を発表した。



まほろん森の塾の作品

3) 話題の遺跡

県内の文化財情報を収集し、話題性ある資料を速報的に展示するコーナーである。また、企画展や他の展示コーナーに関連した遺跡を紹介することで、展示室全体が有機的に連携するように努めている。

平成27年度は、ミニ文化財復興展コーナーに関連して、原子力災害による避難区域となった南相馬市の資料を展示し、3回の展示替えを行った。

◆南相馬市（小高区）荻原遺跡

浜通り地域の旧石器時代・縄文時代早期・平安時代の集落遺跡で、旧石器や土偶などの出土品を替えて、2回展示した。

◆南相馬市（小高区）大富西畑遺跡

浜通り地域の代表的な縄文時代中期後半の集落遺跡で、同時代の特徴的な炉である複式炉を中心に、埋設土器などを展示した。



大富西畑遺跡の出土品

4) 「ふくしまの宝物」

白河館に所蔵されている出土品の中から、学芸員が逸品をピックアップして紹介するコーナーで、1年間に3回展示替えを行なった。

(3) 展示資料のメンテナンス等

常設・野外展示資料の状態について、定期的な点検を実施し、軽微な修繕については、展示担当の学芸員が行った。

また、専門業者に依頼した修繕箇所及び方法は以下のとおりである。

◆前方後円墳

墳丘に付設する木製階段について、手すりの経年劣化が進行したため、安全面から両側の手すりを新材に交換した。また、階段全体に防虫防腐処理及び塗装を行った。

◆奈良時代の家

壁及び側桁を支える側柱について、地下埋設部の経年劣化が進行したため、安全面から側柱をすべて新材に交換した。

交換した側柱には、無色の防虫防腐処理剤を塗布し、自然木の色合いを損なわないようにした。

2. 企画展示

(1) 収蔵資料展

「磐越自動車道の遺跡—会津盆地の弥生時代—」
会期:平成 27 年 2 月 7 日(土)～5 月 10 日(日)
(開催日数 78 日間)

観覧者数:4,339 名(平成 27 年度中の観覧者)

1) 趣旨

会津地方の弥生時代に焦点を当て、磐越自動車道の建設に伴って発掘調査された遺跡の資料を中心に展示した。

会津盆地における弥生文化の展開とその背景について、土器と道具及び墓制の変化に注目して紹介する内容とした。

2) 展示の構成と内容

①はじめに

磐越自動車道と弥生時代の概要を紹介した。

②磐越自動車道の遺跡

会津若松市屋敷遺跡・和泉遺跡、会津坂下町能登遺跡の弥生土器を展示した。

③道具からみた生活の変化

湯川村桜町遺跡を中心に土器と石器を展示し、縄文文化の伝統を強く残していた道具が、後期後半に北陸地方からの影響を受けて変化することを紹介した。また、桜町遺跡出土の木製品(平鍬・掘り棒・梯子・建築部材)を、期間を限定し、展示替えしながら紹介した。

④墓の変化

弥生時代の墓の種類と墓制の変化を紹介した。

⑤おわりに

3) 成果と反省

会津盆地の弥生文化は、教科書に記載された全

国的な歴史像とは必ずしも一致しない。このことから、弥生土器の特徴や変化について丁寧に解説を行ない、地域文化に対する理解が深められるよう工夫した。

(2) ふくしま復興展 I

「古代の文字—出土文字資料から見たふくしま—」
会期:平成 27 年 5 月 30 日(土)～7 月 5 日(日)

(開催日数 32 日間)

観覧者数:3,278 名

1) 趣旨

本企画展は、かけがえのないふるさとの文化を県民に紹介し、ふくしまの復興を願う企画である。浜通り地方の「古代の文字」を取り上げ、木簡や墨書・刻書土器などの出土した文字資料から見た遺跡の姿や遺跡間のつながりを紹介した。

2) 展示の構成と内容

①プロローグ

②文字が語る遺跡の姿「1」

いわき市荒田目条里遺跡・小茶円遺跡や大猿田遺跡、南相馬市大船迫 A 遺跡、泉崎村関和久官衙遺跡等から出土した木簡や墨書土器、羽口・瓦等

ふくしま復興展 I
古代の文字
—出土文字資料から見たふくしま—
平成 27 年 5 月 30 日(土)～7 月 5 日(日)
会場 まほろん特別展示室
主催 (公財)福島県文化振興財団
福島県文化財センター ●白河館
〒961-0835 福島県白河市白飯一里 88 Tel 0248-21-0700 Fax 0248-21-1075 ホームページ 白河文化財センター

「古代の文字—出土文字資料から見たふくしま—」ポスター

を展示し、古代の役所に関連する文字資料を紹介した。

③文字が語る遺跡の姿「2」

檜葉町鍛冶屋遺跡・小山B遺跡、相馬市北原遺跡から出土した墨書土器や耳皿、灰釉・緑釉陶器などを展示した。これらの平安時代のムラにおいて墨書土器が多く出土することから文字が一般にも普及していたことや、墨書土器に書かれている文字の意味が遺構の性格や集団の名称を知る手がかりになることなどを紹介した。

④まじない文字

古代から人々は、様々な「かたち」で祈りを捧げてきた。今回展示した白河市赤根久保遺跡、会津若松市上吉田遺跡、玉川村辰巳城遺跡からは、共通の文字が書かれた墨書土器が多く確認され、一定の儀礼行為が広まっていたものと考えられる。

また、中国の則天武后が690年頃に創出・制定した文字などが日本へと伝えられ、吉祥文字の一種として使用されていたことなどを解説した。

⑤古代の硯

県内から出土した円面硯、風字硯を紹介した。また、杯や杯蓋などを再利用した転用硯も展示した。

⑥エピローグ

3) 関連文化財講演会

6月6日(土)に、大学共同利用機関法人人間文化研究機構理事の平川南氏による文化財講演会「出土文字から古代のふくしまを描く」を開催した。



「古代の文字—出土文字資料から見たふくしま—」
展示解説会

4) 成果と反省

浜通り地方の文字資料を中心に、文字の意味や分布を手掛かりとして、遺跡を越えた情報の伝達や共通の祭祀・儀礼行為があったことなどを分かりやすく解説した。

(3) 指定文化財展

「奥州藤原氏の時代とふくしま—会津坂下町陣が峯城跡の謎—」

会期:平成27年7月25日(土)～9月27日(日)

(開催日数61日間)

観覧者数:5,996名

1) 趣旨

世界遺産「平泉」からの出土品と、多彩な貿易陶磁器を有する会津坂下町陣が峯城跡の出土品とを対比しながら、奥州藤原氏の時代における福島の様相をさぐる企画展とした。

会津坂下町「陣が峯城跡」は、貿易陶磁器をはじめとする古代末期の多彩な遺物が出土したことで知られている。平成19年度に国指定史跡、出土遺物が平成21年度に県重要文化財に指定された。しかし、城主や築城の目的などが不明で、未だ謎が多い遺跡でもある。

本展示は、この陣が峯城跡を特徴づける県指定重要文化財を一堂に公開するとともに、同時代に東北地方に権勢をふるった奥州藤原氏の関連遺跡、特に国史跡に指定されている平泉町「柳之御所遺跡」等の出土品との対比を試みながら、東北地方の歴史を再認識し、文化財保護への関心を高める内容とした。



「奥州藤原氏の時代とふくしま」

2) 展示の内容と構成

①プロローグ～激動の奥州～

はじめに、諸文献や絵巻物などから、陣が峯城築城前後、11～12世紀にかけての東北地方について解説した。

②南奥「ふくしま」～会津坂下町陣が峯城跡～
出土遺物や遺構などを検討し、陣が峯城跡の特徴・特異性を紹介した。

③都市「平泉」～奥州藤原氏の時代～

奥州藤原氏の居館・政庁跡であった柳之御所遺跡を中心に、同氏関連遺跡を読み解くことにより、古代末の奥州について理解を深めつつ、ふくしまとの対比を試みた。

④奥州藤原氏と南奥武士団

源頼朝率いる関東武士団と奥州藤原氏との間で、去就を定めていく南奥武士団について「人々給絹日記」などに基づいて紹介した。

3) 関連文化財講演会

7月25日(土)に、岩手県平泉町総務企画課の八重樫忠郎氏による文化財講演会「世界遺産“平泉”と奥州藤原氏」、8月29日(土)に、会津坂下町教育委員会の吉田博行氏による文化財講

演会「古代末の福島と陣が峯城跡」を開催した。

4) 成果と反省

陣が峯城跡と柳之御所遺跡の周辺の景観の共通性(館・経塚・寺院を持つ)を示すことができた。また、陣が峯城跡からは、「平泉」に匹敵する逸品が多数出土したことから、城主の地位について議論する機会を提供できた。

ただ、来館者からは、陣が峯城主の人物像について、より深く踏み込んだ見解を示してほしかったという意見も寄せられた。

(4) ふくしま復興展Ⅱ

「よみがえる文化財―震災からの救出活動と再生への取り組み―」

会期:平成27年10月17日(土)～12月6日(日)

(開催日数 44日間)

観覧者数:4,219名

1) 趣旨

東日本大震災で被災した福島県内の文化財等を展示公開し、これまでの被災文化財の救出活動とその再生への取り組みについて紹介しながら、文化財保護の大切さを伝える企画展である。

「奥州藤原氏の時代とふくしま―会津坂下町陣が峯城跡の謎―」展示資料一覧

番号	資料名	遺跡名	点数	所蔵者
1	白磁 水注	陣が峯城跡	1	会津坂下町教育委員会
2	白磁 四耳壺	陣が峯城跡	3	会津坂下町教育委員会
3	須恵器系陶器 壺	陣が峯城跡	1	会津坂下町教育委員会
4	須恵器系陶器 四耳壺	陣が峯城跡	1	会津坂下町教育委員会
5	青磁(龍泉窯) 碗	陣が峯城跡	1	会津坂下町教育委員会
6	高麗青磁 碗	陣が峯城跡	1	会津坂下町教育委員会
7	青白磁 小皿	陣が峯城跡	1	会津坂下町教育委員会
8	白磁 皿	陣が峯城跡	3	会津坂下町教育委員会
9	白磁 碗	陣が峯城跡	4	会津坂下町教育委員会
10	渥美産 壺	陣が峯城跡	1	会津坂下町教育委員会
11	かわらけ	陣が峯城跡	6	会津坂下町教育委員会
12	鉄製品 武具類	陣が峯城跡	10	会津坂下町教育委員会
13	鉄製品 道具類	陣が峯城跡	2	会津坂下町教育委員会
14	鉄製品 釘	陣が峯城跡	2	会津坂下町教育委員会
15	権衡 おもり	陣が峯城跡	1	会津坂下町教育委員会
16	和鏡	陣が峯城跡	1	会津坂下町教育委員会
17	硯	陣が峯城跡	1	会津坂下町教育委員会
18	木製 碗[復元品]	陣が峯城跡	1	会津坂下町教育委員会
19	常滑産 大甕	陣が峯城跡	1	会津坂下町教育委員会
20	炭化物 蕎麦	陣が峯城跡	—	会津坂下町教育委員会
21	炭化物 豆類	陣が峯城跡	—	会津坂下町教育委員会
22	炭化物 米	陣が峯城跡	—	会津坂下町教育委員会
23	渥美系陶器 壺	雷神山経塚	1	会津坂下町教育委員会
24	人面墨書土器[複製品]	柳之御所遺跡	1	(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
25	銅印 銘「磐前村印」[複製品]	柳之御所遺跡	1	岩手県立博物館

番号	資料名	遺跡名	点数	所蔵者
26	白磁 壺	柳之御所遺跡	6	岩手県教育委員会
27	青磁(龍泉窯) 碗	柳之御所遺跡	2	岩手県教育委員会
28	青磁(同安窯) 皿	柳之御所遺跡	2	岩手県教育委員会
29	白磁 水注(把手部分)	柳之御所遺跡	1	岩手県教育委員会
30	国産陶器 片口鉢	柳之御所遺跡	1	平泉文化遺産センター
31	渥美産 壺	柳之御所遺跡	1	岩手県教育委員会
32	かわらけ	柳之御所遺跡	10	岩手県教育委員会
33	ちゅう木	柳之御所遺跡	5	平泉文化遺産センター
34	漆器 碗	柳之御所遺跡	1	岩手県教育委員会
35	折敷	柳之御所遺跡	2	岩手県教育委員会
36	箸	柳之御所遺跡	4	岩手県教育委員会
37	かわらけ	白山社遺跡	18	平泉文化遺産センター
38	梵鐘撞座[復元品]	白山社遺跡	1	平泉文化遺産センター
39	渥美系陶器 片口鉢	花立古窯跡	2	平泉文化遺産センター
40	渥美系陶器 碗	花立古窯跡	3	平泉文化遺産センター
41	白磁 水注[複製品]	志羅山遺跡	1	岩手県立博物館
42	墨書折敷「人々給絹日記」[複製品]	柳之御所遺跡	1	岩手県立博物館
43	かわらけ	荒屋敷遺跡	7	福島県教育委員会
44	須恵器系陶器 甕	荒屋敷遺跡	4	福島県教育委員会
45	青磁(龍泉窯) 碗	荒屋敷遺跡	5	福島県教育委員会
46	青磁(同安窯) 碗	荒屋敷遺跡	3	福島県教育委員会
47	白磁 碗	荒屋敷遺跡	13	福島県教育委員会
48	黄釉 四耳壺	荒屋敷遺跡	1	福島県教育委員会
49	青白磁 合子	荒屋敷遺跡	1	福島県教育委員会

今回は、県内の主な文化財の被災状況と、震災直後から文化財保護活動を牽引した「ふくしま歴史資料保存ネットワーク」の活動の紹介、さらに県内の被災資料の救出活動の具体例として、南相馬市と須賀川市長沼における救出活動を紹介した。

また、双葉郡の3つの町の資料館から救出され、白河館の仮保管施設で保管されている文化財、民俗芸能等の無形民俗文化財の被災状況と保護活動についても紹介した。

2) 展示の構成と内容

①福島県内の文化財被災状況

東日本大震災で被災した福島県内の主な文化財を、地図と写真で紹介した。また、大震災当日とその後の白河館の様子も写真で紹介した。

②ふくしま歴史資料保存ネットワークの活動

3・11の直後から活動を開始し、福島県の被災文化財の保護活動を牽引した「ふくしま歴史資料保存ネットワーク」の活動について、写真と関連資料を展示して紹介した。

③南相馬市における被災資料の救出活動

地震・津波・原発事故により、市内全域で甚大な被害を受けた南相馬市での文化財救出活動の経過と現状を通して、複合災害で被災した文化財の保護の課題等について紹介した。

同市では文化財等の収蔵施設が被災したほか、震災後に収蔵施設が撤去されるのに伴って、資料の仮置きや再移動など、文化財の保護をめぐる多くの問題に直面した。さらに、市域の一部では、復興の過程で家屋等の解体に伴って、貴重な資料が失われる懸念も生じている。

そうした被災地の文化財の置かれている現状を、同市所蔵の関連資料を展示して紹介し、災害時の文化財保護のあり方について問題提起する内容とした。

④須賀川市長沼における被災資料の救出活動

地震で決壊した須賀川市長沼地区の藤沼湖から流れ出た濁流で被災した同市の文化財収蔵庫から救出された資料等を展示した。

同収蔵庫では、発掘調査の記録図面や調査カードが流入した土砂で汚損し、真空凍結乾燥法等の応急処置が施されたが、これらの紙資料を展示して、被災した紙資料の劣化防止法について紹介した。

また、浸水でネーミングが失われた考古資料を展示し、資料情報としてのネーミングの重要性について問いかける内容とした。

⑤国関係機関の支援による避難指示区域内資料の保護

福島第一原子力発電所事故による避難指示区域内の文化財は、平成24年度から、文化庁により組織された東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会や福島県被災文化財救援本部などにより救出され、相馬市にある一時保管施設を経由して、白河館敷地内の仮保管施設に搬送された。

避難指示区域内から救出された資料は、文化庁の被災ミュージアム再興事業により、白河館

「よみがえる文化財―震災からの救出活動と再生への取り組み―」展示資料一覧

番号	資料名	時代	点数	所蔵者
1	ふくしま歴史資料保存ネットワーク関連資料	平成23・25年	6	ふくしま歴史資料保存ネットワーク事務局
2	酒德利（地名入）	近・現代	3	南相馬市博物館
3	「お浜下り」版画	昭和56年	1	南相馬市博物館
4	墨書入り板倉部材	大正3・4年	2	南相馬市博物館
5	塚越遺跡出土縄文土器深鉢	縄文	2	須賀川市歴史民俗資料館
6	うまや遺跡出土須恵器	奈良・平安	1	須賀川市歴史民俗資料館
7	上ノ代遺跡出土石製紡錘車	古代	1	須賀川市歴史民俗資料館
8	被災遺物整理照合図	平成	2	須賀川市歴史民俗資料館
9	稲古館古墳 実測図原図	平成	1	須賀川市歴史民俗資料館
10	沢田A遺跡（2次）実測図原図	平成	1	須賀川市歴史民俗資料館
11	沢田A遺跡（2次）図面台帳	平成	1	須賀川市歴史民俗資料館
12	縄文土器深鉢（出土遺跡不明）	縄文	1	須賀川市歴史民俗資料館
13	石鏃（出土遺跡不明）	縄文	41	須賀川市歴史民俗資料館
14	土師器（出土遺跡不明）	古墳	4	須賀川市歴史民俗資料館
15	須恵器（出土遺跡不明）	古墳	3	須賀川市歴史民俗資料館
16	土師器杯（出土遺跡不明）	奈良・平安	6	須賀川市歴史民俗資料館
17	土器片（出土遺跡不明）	奈良・平安	11	須賀川市歴史民俗資料館
18	本宮西遺跡 土器片	奈良・平安	13	須賀川市歴史民俗資料館
19	首藤コレクション土器		3	須賀川市立博物館
20	大川原村戸長役場達綴	明治21年	1	大熊町教育委員会
21	双葉修養女学校在学卒業證明台帳	昭和8年	1	双葉町教育委員会
22	県立双葉中学校建築部会関係綴	大正11年	1	双葉町教育委員会
23	福島県富岡町案内真景図	大正8年	1	富岡町教育委員会
24	標葉部御検地帳（熊川村）	近世	1	大熊町教育委員会
25	常磐線双葉駅 縦看板	昭和	2	双葉町教育委員会
26	国鉄客車列車行先標サインボード	昭和	1	双葉町教育委員会
27	常磐線国鉄客車行先標	昭和	1	双葉町教育委員会
28	常磐線双葉駅 標識	昭和	2	双葉町教育委員会
29	鉄道ランプ	昭和	1	双葉町教育委員会
30	常磐線双葉駅連絡箱	昭和	1	双葉町教育委員会
31	常磐線双葉駅看板	昭和	2	双葉町教育委員会
32	獅子頭	昭和	1	相馬市磯部寄木神社
33	小太鼓胴	昭和	1	相馬市磯部寄木神社
34	美シ森B遺跡出土弥生土器	弥生	1	福島県教育委員会

で保存管理のための作業が行われている。このうち、双葉町歴史民俗資料館所蔵の常磐線双葉駅関連資料などを展示し、同事業までの経緯等について紹介した。

⑥被災地域の無形民俗文化財とその保護活動

東日本大震災では、地震・津波・原発事故により、有形資料だけでなく民俗芸能等の無形民俗文化財も多く被災した。

このうち相馬市磯部地区で津波で被災し、奇跡的に瓦礫の中から発見された「磯部の神楽」の獅子頭と太鼓を展示し、あわせて復興した被災地の民俗芸能等の無形民俗文化財が、被災住民の心の拠り所となっていること等を紹介した。

なお、展示室の中央に、J ヴィレージ（楢葉町・広野町）の建設に伴い発掘され、同施設で展示公開されていた楢葉町美シ森B遺跡出土の弥生土器を象徴的に展示した。同施設は福島第一原子力発電所事故の復旧作業の拠点となったが、展示開幕の数か月前に、本来の保管場所である白河館に土器が返納され、白河館での初公開となった。

展示の最後には、文化財の復旧・復興にあたった関係者から寄せられた証言・メッセージを掲示した。

3) 関連講演会・研修会

10月17日（土）には、文化財ビデオ上映・講演会「被災地の伝統芸能」を、11月28日（土）には、文化財講演会「災害痕跡を掘る」を開催した。

また、11月7日（土）には、文化財保護・活



「よみがえる文化財—震災からの救出活動と再生への取り組み—」

用専門研修「文化財の保全と記録技術」を、12月5日（土）には、無形の文化財研修「映像記録作成の方法と課題」を開催した。

4) 成果と反省

会期中には、関連講演会・研修会の終了後に展示解説会を行ったほか、11月3日（火）と12月6日（日）のイベントで、「こどものための企画展かいせつ会」を初めて行った。文化財の大切さ、災害から文化財を守る意義について、小さな子どもでも理解できるように紙芝居を使って解説した。

(5) 収蔵資料展

「縄文土器の年代—その古さを読み解く—」

会期：平成28年3月5日（土）～5月8日（日）

（開催日数 57 日間）

観覧者数：1,302 名（平成27年度中の観覧者）

1) 趣旨

平成26年度から、白河館の収蔵資料についてAMS法を用いた放射性炭素年代測定及び炭素・窒素安定同位体比分析を行っている。今回の展示では、平成26・27年度に実施した、縄文時代早期から前期にかけての資料の分析結果を公



「縄文土器の年代—その古さを読み解く—」ポスター

表した。

また、白河館の収蔵資料を中心として、県内の縄文時代草創期から前期初頭までの土器についての変遷と暦年代値を併せて紹介することで、観覧者の理解を深める展示とした。

さらに、炭素・窒素安定同位体分析のデータから、当時の食生活の一端を推測することも可能であることから、その分析結果に基づく所見についても紹介した。

2) 展示の構成と内容

「縄文土器の年代—その古さを読み解く—」展示資料一覧

番号	資料名	時期	遺跡名	点数	所蔵者
1	撚糸文土器群	縄文時代早期	塩喰岩陰遺跡	1	福島県教育委員会
2	薄手無文土器	縄文時代早期	塩喰岩陰遺跡	1	福島県教育委員会
3	貝殻・沈線文土器	縄文時代早期	塩喰岩陰遺跡	2	福島県教育委員会
4	前期土器	縄文時代前期	塩喰岩陰遺跡	1	福島県教育委員会
5	中期土器	縄文時代中期	塩喰岩陰遺跡	1	福島県教育委員会
6	後期土器	縄文時代後期	塩喰岩陰遺跡	2	福島県教育委員会
7	多縄文系土器	縄文時代草創期	達中久保遺跡	2	福島県教育委員会
8	爪型文土器	縄文時代草創期	達中久保遺跡	2	福島県教育委員会
9	隆起線文土器	縄文時代草創期	獅子内遺跡	2	福島県教育委員会
10	爪型文土器	縄文時代草創期	春田遺跡	1	福島県教育委員会
11	多縄文系土器	縄文時代草創期	春田遺跡	1	福島県教育委員会
12	隆起線文土器	縄文時代草創期	南諏訪原遺跡	1	福島県教育委員会
13	隆起線文土器	縄文時代草創期	高山遺跡	1	白河市教育委員会
14	撚糸文土器群	縄文時代早期	蛇ヶ石前遺跡	6	福島県教育委員会
15	撚糸文土器群	縄文時代早期	塩喰岩陰遺跡	13	福島県教育委員会
16	撚糸文土器群	縄文時代早期	大村新田遺跡	1	福島県教育委員会
17	撚糸文土器群	縄文時代早期	西田H遺跡	17	福島県教育委員会
18	撚糸文土器群	縄文時代早期	一里段A遺跡	2	福島県教育委員会
19	撚糸文土器群	縄文時代早期	鴨ヶ館跡	1	福島県教育委員会
20	撚糸文土器群	縄文時代早期	沢目木遺跡	3	福島県教育委員会
21	撚糸文土器群	縄文時代早期	下谷ヶ地平B遺跡	1	福島県教育委員会
22	撚糸文土器群	縄文時代早期	竹之内遺跡	1	いわき市教育委員会
23	薄手無文土器	縄文時代早期	乱塔前遺跡	40	福島県教育委員会
24	薄手無文土器	縄文時代早期	仲ノ縄B遺跡	6	福島県教育委員会
25	薄手無文土器	縄文時代早期	岩下向A遺跡	10	福島県教育委員会
26	押型文土器	縄文時代早期	獅子内遺跡	16	福島県教育委員会
27	押型文土器	縄文時代早期	塩喰岩陰遺跡	3	福島県教育委員会
28	縄文土器	縄文時代早期	塩喰岩陰遺跡	1	福島県教育委員会
29	押型文土器	縄文時代早期	竹之内遺跡	1	いわき市教育委員会
30	押型文土器	縄文時代早期	芳振B遺跡	1	福島県教育委員会
31	貝殻・沈線文土器	縄文時代早期	前原A遺跡	11	福島県教育委員会
32	貝殻・沈線文土器	縄文時代早期	タタラ山遺跡	2	福島県教育委員会
33	貝殻・沈線文土器	縄文時代早期	北平遺跡	1	福島県教育委員会
34	貝殻・沈線文土器	縄文時代早期	馬場平B遺跡	1	福島県教育委員会
35	貝殻・沈線文土器	縄文時代早期	塩喰岩陰遺跡	3	福島県教育委員会
36	貝殻・沈線文土器	縄文時代早期	西田H遺跡	3	福島県教育委員会
37	貝殻・沈線文土器	縄文時代早期	六郎次遺跡	1	福島県教育委員会
38	貝殻・沈線文土器	縄文時代早期	下谷ヶ地平B遺跡	1	福島県教育委員会
39	貝殻・沈線文土器	縄文時代早期	天光遺跡	4	福島県教育委員会
40	貝殻・沈線文土器	縄文時代早期	八方塚遺跡	2	福島県教育委員会

①縄文土器の年代をさぐるには？

土器の古さを知る概念として、相対編年（型式学的編年・層位学的編年）と暦年代があることを紹介し、それらの特徴を導入部において解説した。また、今回の展示で中心となる縄文時代草創期から前期初頭までの時期について説明した。

②土器の型式と年代測定

福島県内の縄文時代草創期・早期・前期初頭の土器を展示し、土器の型式とともに変化する形や

番号	資料名	時期	遺跡名	点数	所蔵者
41	貝殻・沈線文土器	縄文時代早期	岩下向A遺跡	4	福島県教育委員会
42	貝殻・沈線文土器	縄文時代早期	竹之内遺跡	1	いわき市教育委員会
43	条痕文土器	縄文時代早期	松ヶ平A遺跡	1	福島県教育委員会
44	条痕文土器	縄文時代早期	堂田A遺跡	5	福島県教育委員会
45	条痕文土器	縄文時代早期	上田郷VI遺跡	1	福島県教育委員会
46	条痕文土器	縄文時代早期	西田H遺跡	4	福島県教育委員会
47	条痕文土器	縄文時代早期	本町西A遺跡	1	福島県教育委員会
48	条痕文土器	縄文時代早期	竹柄遺跡	1	福島県教育委員会
49	条痕文土器	縄文時代早期	泉川遺跡	2	福島県教育委員会
50	条痕文土器	縄文時代早期	桜立D遺跡	2	福島県教育委員会
51	条痕文土器	縄文時代早期	中ノ沢A遺跡	2	福島県教育委員会
52	条痕文土器	縄文時代早期	鴨ヶ館跡	1	福島県教育委員会
53	条痕文土器	縄文時代早期	大畑F遺跡	1	いわき市教育委員会
54	条痕文土器	縄文時代早期	竹之内遺跡	2	いわき市教育委員会
55	条痕文土器	縄文時代早期	富作遺跡	3	福島県教育委員会
56	条痕文土器	縄文時代早期	狸森遺跡	1	福島県教育委員会
57	縄文条痕文土器	縄文時代早期	西田H遺跡	6	福島県教育委員会
58	縄文条痕文土器	縄文時代早期	中ノ沢A遺跡	1	福島県教育委員会
59	縄文条痕文土器	縄文時代早期	鴨ヶ館跡	1	福島県教育委員会
60	縄文条痕文土器	縄文時代早期	上田郷VI遺跡	2	福島県教育委員会
61	縄文条痕文土器	縄文時代早期	仁井殿遺跡	1	福島県教育委員会
62	羽状縄文土器	縄文時代早期～前期	上田郷VI遺跡	7	福島県教育委員会
63	羽状縄文土器	縄文時代早期～前期	荻平遺跡	7	福島県教育委員会
64	羽状縄文土器	縄文時代早期～前期	羽白C遺跡	1	福島県教育委員会
65	羽状縄文土器	縄文時代早期～前期	羽白D遺跡	3	福島県教育委員会
66	羽状縄文土器	縄文時代早期～前期	西田H遺跡	1	福島県教育委員会
67	条痕文土器群	縄文時代早期	田子平遺跡	1	福島県教育委員会
68	羽状縄文土器	縄文時代早期～前期	上田郷VI遺跡	6	福島県教育委員会
69	羽状縄文土器	縄文時代早期～前期	北平遺跡	1	福島県教育委員会
70	羽状縄文土器	縄文時代早期～前期	中平遺跡	1	福島県教育委員会
71	縄文土器	縄文時代早期～前期	荻平遺跡	1	福島県教育委員会
72	爪型文土器	縄文時代草創期	仙台内前遺跡	9	福島県教育委員会
73	半月形石器	縄文時代草創期	仙台内前遺跡	1	福島県教育委員会
74	二次加工石器	縄文時代草創期	仙台内前遺跡	1	福島県教育委員会
75	磨製石斧	縄文時代草創期	仙台内前遺跡	1	福島県教育委員会
76	円盤状石器	縄文時代草創期	仙台内前遺跡	1	福島県教育委員会
77	打製石斧	縄文時代草創期	仙台内前遺跡	3	福島県教育委員会
78	石鏃	縄文時代草創期	仙台内前遺跡	4	福島県教育委員会
79	搔器	縄文時代草創期	仙台内前遺跡	4	福島県教育委員会

文様などを紹介した。併せて平成 26・27 年度に行った AMS 年代測定に供した資料と分析結果を初公開した。

③ススとコゲからなぞをとく

土器の内外面に炭化物が付着した土器を展示して、内面と外面に付着する炭化物の意味を解説した。平成 26・27 年度に行った炭素・窒素安定同位体比（C / N 比）分析の方法を紹介しつつ、その結果を初公開した。また、C / N 比から当時の食に関しても想定できることから、土器の利用法や当時の植生、食生活と献立、縄文カレンダーなどを展示した。

④最古の土器をもとめて

福島県内の草創期の土器や石器を展示し、AMS 年代測定による縄文土器の古さに関する考古学史、主に青森県大平山元 I 遺跡や神奈川県夏島貝塚資料などについての展示により、放射性炭素年代測定及び炭素・窒素安定同位体比分析の理解をより深める内容とした。

3) 関連事業

平成 28 年 3 月 5 日（土）には、文化財講座「縄文土器の地域性（浜通りの特性を中心に）」を開催した。

4) 成果と反省

放射性炭素年代測定と炭素・窒素同位体比分析の結果を併せて公開する内容であったため、難しいテーマを簡便に理解できるような展示構成を心がけた。しかし、専門用語や分析値を多く記載せざるを得ず、一部の見学者からは、内容が難しいという声をいただいた。

3. 講演会等

（1）館長講演会

平成 27 年度は、「世界史と考古学」をテーマに、5 回の館長講演会を開催した。

- ・平成 27 年 5 月 17 日（日）第 1 回「世界史の中の縄文文化－その人類史的な価値－」
- ・平成 27 年 7 月 18 日（土）第 2 回「人間観と異文化理解の歩み」
- ・平成 27 年 9 月 12 日（土）第 3 回「聖書と石斧」
- ・平成 27 年 11 月 15 日（日）第 4 回「人間はサルの仲間だって？」
- ・平成 28 年 2 月 6 日（土）第 5 回「地下の物たちに過去を語らせよ」

（2）文化財講演会等

企画展などに関連付けて、文化財講演会を 6 回、文化財ビデオ上映・講演会を 1 回、文化財講座を 1 回開催した。平成 27 年度の受講者数は 474 人で、昨年度と比較して 181 人増加した。

①「出土文字から古代のふくしまを描く」は、ふくしま復興展 I 「古代の文字」の関連講演会である。出土文字資料から、古代の福島県域及び周辺地域の軍団の動向や、種子札と古代福島の稲作について、大学共同利用機関法人人間文化研究機構の平川南氏が講演を行った。

・実施日：平成 27 年 6 月 6 日（土）

・参加者：60 名

②「世界遺産“平泉”と奥州藤原氏」は、指定文化財展「奥州藤原氏の時代とふくしま」関連講演会である。平泉遺跡群や奥州藤原氏の盛

文化財講演会実施状況

名 称	講 師	実施日	受講者数
第 1 回「世界史と考古学 世界史の中の縄文文化 - その人類史的な価値 -」	館長 菊池 徹夫	平 27.5.17	32 名
第 2 回「世界史と考古学 人間観と異文化理解の歩み」	館長 菊池 徹夫	平 27.7.18	28 名
第 3 回「世界史と考古学 聖書と石斧」	館長 菊池 徹夫	平 27.9.12	38 名
第 4 回「世界史と考古学 人間はサルの仲間だって？」	館長 菊池 徹夫	平 27.11.15	26 名
第 5 回「世界史と考古学 地下の物たちに過去を語らせよ - 近代考古学の誕生 -」	館長 菊池 徹夫	平 28.2.6	31 名
I 「出土文字から古代のふくしまを描く」	平川 南（人間文化研究機構 理事）	平 27.6.6	60 名
II 「世界遺産“平泉”と奥州藤原氏」	八重樫 忠郎（平泉町総務企画課 課長補佐）	平 27.7.25	74 名
III 「古代末の福島と陣が峯城跡」	古田 博行（会津坂下町教育委員会 係長）	平 27.8.29	72 名
IV 「災害痕跡を掘る - 発掘調査からわかる災害と復興 -」	小島 敦子（群馬県埋蔵文化財調査事業団 部長）	平 27.11.28	29 名
V 「白川城と小峰城」	石井 洋光（白河市建設部文化財課 主任主査）	平 27.12.12	87 名
VI 「旧石器時代研究のいま - 方法論の反省を踏まえて -」	曾田 容弘（郡山女子大学短期大学部 准教授）	平 28.1.9	68 名
ビデオ上映会「被災地の伝統芸能 - 被災の現状と取り組み -」	懸田 弘訓（民俗芸能学会福島調査団 団長）	平 27.10.17	32 名
講座「縄文土器の地域性 - 浜通りの特性を中心に -」	山内 幹夫（当館職員）	平 28.3.5	52 名
		合 計	629 名

衰をテーマとして、岩手県平泉町総務企画課の八重樫忠郎氏が講演を行った。

・実施日：平成27年7月25日（土）

・参加者：74名

③「古代末の福島と陣が峯城跡」は、指定文化財展「奥州藤原氏の時代とふくしま」関連講演会の第二弾である。会津坂下町教育委員会の吉田博行氏が、陣が峯城跡の調査成果と歴史的変遷について講演を行なった。

・実施日：平成27年8月29日（土）

・参加者：72名

④「災害痕跡を掘る」をテーマとして、群馬県埋蔵文化財調査事業団の小島敦子氏が講演を行なった。群馬県内の発掘調査から判明した火山災害を主とする災害痕跡を紹介し、それ以後の土地利用の変遷を解説した。

・実施日：平成27年11月28日（土）

・参加者：29名

⑤「白川城と小峰城」は、結城氏の本拠だった白川城跡の調査成果とともに、小峰城跡の被災状況と、復旧に伴う調査で得られた新知見について、白河市建設部都市政策室文化財課の石井洋光氏が講演を行った。

・実施日：平成27年12月12日（土）

・参加者：87名

⑥「旧石器時代研究のいま」は、コラボ展「まほろん&発掘ガール」関連の講演会である。郡山女子大学短期大学部准教授の會田容弘氏が、これまでの旧石器時代研究の問題点を踏まえ、これからの新しい研究法について解説した。

・実施日：平成28年1月9日（土）

・参加者：68名



「世界遺産“平泉”と奥州藤原氏」

（3）文化財講座

収蔵資料展「縄文土器の年代」の関連講座である。「縄文土器の地域性―浜通りの特性を中心に―」をテーマとして、縄文時代早期後半の土器群の変遷とその背景について、当館職員の山内幹夫が解説した。

・実施日：平成28年3月5日（土）

・参加者：52名

（4）文化財に関する上映会

ふくしま復興展Ⅱ「よみがえる文化財」に関連して、文化財ビデオ上映・講演会「被災地の伝統芸能―被災の現状と取り組み―」を開催した。

「室原の田植踊」（浪江町）の上映とともに、民俗芸能学会福島調査団団長の懸田弘訓氏が、震災後に直面した県内の民俗芸能継承の危機とその後の状況について講演した。

・実施日：平成27年10月17日（土）

・参加者：32名

4. 体験学習

（1）常時体験型メニュー

1) 体験活動室メニュー

個人来館者を対象とし、体験活動室で行う体験学習のメニューである。本年度は、20種類の体験活動室メニューを実施した。「勾玉づくり」「管玉づくり」「火おこしに挑戦しよう」の3種類は、通年で体験できるメニューである。

他の17種類のメニューは、期間限定の体験活動室メニューである。「オリジナルキーホルダーをつくろう」「土偶ペンダントをつくろう」は、ふくしまデスティネーションキャンペーン期間に



「土偶ペンダントをつくろう」

実施した特別体験メニューである。「おひな様をつくろう」は、今年度からの新メニューである。

体験活動室メニューの実施状況

内容	参加人数	内容	参加人数
勾玉づくり	1,699 名	ガラス玉をつくろう	256 名
管玉づくり	36 名	時代衣装を着てみよう	129 名
火おこしに挑戦しよう	2,513 名	アンギン編みに挑戦しよう	11 名
オリジナルキーホルダーをつくろう	137 名	装飾壁画に挑戦しよう	47 名
オリジナル缶バッジをつくろう	260 名	ミニチュア土器・埴輪をつくろう	65 名
土偶ペンダントをつくろう	257 名	昔の遊び	115 名
七夕かざりをつくろう	42 名	拓本に挑戦しよう	38 名
組みひもをつくろう	88 名	おひな様をつくろう	76 名
切り絵に挑戦しよう	78 名	網代編みに挑戦しよう	56 名
カラムシでアクセサリーをつくろう	118 名	匂い袋をつくろう	114 名
合 計			6,131 名

2) 臨時の個人来館者対応の体験メニュー

まほろんイベントや小中学校の夏休み期間において、個人来館者向けの体験メニューを実施した。

臨時の個人来館者対応の体験メニューの実施状況

内容	参加人数	内容	参加人数
土偶ペンダントづくり	320 名	オリジナル缶バッジ	571 名
オリジナルキーホルダー	198 名	弓矢体験	1,241 名
バックヤードツアー	272 名	野外展示	62 名
わたあめ	356 名	縄文土器ミニ展示	817 名
紙かぶと	68 名	時代衣装	92 名
妖怪見世物小屋	155 名	カタヌキ菓子体験	184 名
射的	138 名	かき氷体験	209 名
まほろん 3 種競技	26 名	まほろんグッズ抽選会	530 名
森の塾提供メニュー	15 名	マブリングでポストカードをつくろう	212 名
七輪でおせんべいを焼こう	200 名	木の実でやじろべえをつくろう	160 名
昔のあそびをしてみよう	171 名	企画展示こども向け解説会	67 名
まほろんウルトラ○×クイズ	441 名	わくわクニイさん to ライブ	325 名
実演パフォーマンス	325 名	まほろん特製万華鏡	177 名
まほろん組紐ミサンガ	148 名	ショコラでミロワール	233 名
アンケートに答えてアイの種をもらおう	115 名	巡って完成「まほろんスタンブ版画」	373 名
ジャンケン大会	160 名	うわさのヒーローショー	60 名
もちつき体験と鏡もちづくり体験	349 名	リアル宝探しイベント	509 名
わくわクニイさんとゆかいな仲間の工作教室	450 名	縄文カフェ	100 名
きなこづくり体験（鑑賞者）	186 名	合 計	10,015 名

3) 団体来館者対応の体験メニュー

事前予約の団体来館者に対し、勾玉づくり、

火おこし、土器にふれる体験など 9 メニューを実施した。また、条件付きで、体験活動室メニューを団体来館者対応の体験メニューで実施した。

団体来館者対応の体験メニューの実施状況

内容	参加人数	内容	参加人数
勾玉づくり	3,508 名	時代衣装を着てみよう	24 名
火おこしに挑戦しよう	3,627 名	ガラス玉	49 名
土器さわり	2,278 名	昔の遊び	142 名
土器づくり	32 名	昔の道具	1,594 名
ミニチュア土器	274 名	体験活動室メニュー	160 名
合 計			11,688 名

(2) 募集型体験学習メニュー

1) 実技講座

昔のさまざまな“モノづくり”を体験することで、文化財への理解や愛着を深めることを目的として実施した。

平成 27 年度は 12 講座(全 19 回)を実施した。実技講座の名称、日程、参加者数は表のとおりである。

実技講座の実施状況

	講座名	実施日	参加者数
1	家族で土器づくり初級編①製作	平 27.5.10	14 名
2	家族で土器づくり初級編②野焼き	平 27.6.14	11 名
3	カラムシから布をつくろう①刈取り	平 27.6.28	14 名
4	カラムシから布をつくろう②糸づくり	平 27.7.19	13 名
5	親子で石器をつくろう	平 27.8.1	10 名
6	古代の染色にちょうせん	平 27.8.8	18 名
7	カラムシから布をつくろう③布づくり	平 27.8.30	14 名
8	家族で土笛をつくろう	平 27.9.26	19 名
9	茶碗づくり①製作	平 27.10.18	24 名
10	古代の印章をつくろう	平 27.11.8	11 名
11	茶碗づくり②絵付け	平 27.11.22	24 名
12	ミニチュア鏡をつくろう	平 27.11.29	14 名
13	家族で門松をつくろう	平 27.12.20	21 名
14	親子で土偶・土面をつくろう①製作	平 28.1.24	12 名
15	縄文土器づくり上級編①製作	平 28.1.30	12 名
16	縄文土器づくり上級編②文様づけ	平 28.1.31	11 名
17	親子でアクセサリーをつくろう	平 28.2.21	13 名
18	親子で土偶・土面をつくろう②野焼き	平 28.2.28	7 名
19	縄文土器づくり上級編③野焼き	平 28.2.28	12 名
合 計			274 名

2) まほろんイベント

館の業務とその魅力を広く県民に伝え、利用者層の幅を広げることを目的として、平成 27 年度は 7 回実施した。まほろんイベントの名称、日程、参加者数は表のとおりである。

まほろんイベントの実施状況

	イベント	実施日	参加者数
1	GW まほろんまつり	平 27.5.2～6	1,832 名
2	まほろん夏まつり	平 27.7.26	551 名
3	まほろんを描こう	平 27.9.19～23	97 名
4	まほろん秋まつり	平 27.11.3	441 名
5	まほろん感謝デー	平 27.12.6	1,312 名
6	まほろん双六大会	平 28.1.17	13 名
7	まほろん冬まつり	平 28.2.14	631 名
	合 計		4,877 名



「まほろんを描こう」表彰式

3) まほろん森の塾

まほろん森の塾は、小学校4年生から中学生までを参加対象とし、年間を通じて昔の暮らし・技術について体験することで、自らが生きる力身につけることを目的として実施している。

平成27年度は、小学生8名が登録し、「昔の生活技術を体験してみよう」をメインテーマとして、樹皮のかごづくり・石器づくり・遺跡見学・縄文時代の料理づくり・学習発表会など、6回にわたって活動を行なった。



まほろん森の塾

まほろん森の塾の実施状況

	講座名	実施日	参加者数
第1回	入塾式・昔を知る	平 27.5.17	7 名
第2回	昔の技を学ぼう	平 27.6.28	8 名
第3回	夏まつりに参加しよう	平 27.7.26	5 名
第4回	まほろん探検	平 27.9.6	7 名
第5回	縄文時代の料理をつくる	平 27.10.4	7 名
第6回	石器づくり・修了式	平 27.11.15	8 名
		延べ	42 名

(3) 館外体験学習事業

本事業は、県内の学校や公民館などの生涯学習施設における体験学習を支援することを目的とし、館の職員が収蔵資料や体験学習資材を携えて施設へ出向き（ただし、「ネットでまほろん」を除く）、地域の歴史を伝え、体験活動を行なうものである。体験活動を実施したメニューは、勾玉づくり、火おこし体験、弓矢体験、土器さわり体験、時代衣装体験である。

本事業の各プログラムの概要と平成27年度の成果は、以下のとおりである。

1) おでかけまほろん

小中学校などの教育機関を対象としたプログラムで、本年度は44校で実施した。

学校の先生と館職員が協力して授業を行い、学校周辺の歴史や遺跡を知り、古代の人々の暮らしや技術を学ぶ体験活動を行うものである。



おでかけまほろん

2) まほろん出前講座

公民館などの生涯学習施設における「子供クラブ」や「高齢者学級」等を対象としたプログラムで、本年度は、桑折町・二本松市・小野町・須賀川市・南会津町の5市町6箇所で開催した。

おでかけまほろん

No	団体名	学年・科目	内 容	実施日	人数
1	須賀川市立大森小学校	小5・6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢・時代衣装	平 27.4.8	22 名
2	二本松市立油井小学校	小6年、社会	土器さわり・弓矢	平 27.4.9	69 名
3	伊達市立小手小学校	小5・6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平 27.4.14	11 名
4	福島市立蓬萊東小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・	平 27.4.15	40 名
5	泉崎村立泉崎第二小学校	小6年、社会	火おこし	平 27.4.16	25 名
6	磐梯町立磐梯第二小学校	小6年、社会	火おこし	平 27.4.17	10 名
7	南会津町立館岩小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平 27.4.21	15 名
8	葛尾村立葛尾小学校	小6年、社会	土器さわり	平 27.4.22	5 名
9	伊達市立伊達小学校	小6年、社会	勾玉・土器さわり・火おこし	平 27.4.23	84 名
10	浅川町立浅川小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし	平 27.4.28	60 名
11	川俣町立福田小学校	小6年、社会	勾玉・火おこし	平 27.5.1	11 名
12	本宮市立糠沢小学校	小6年、社会	勾玉・火おこし	平 27.5.8	29 名
13	本宮市立白岩小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平 27.5.12	45 名
14	会津坂下町立坂下南小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平 27.5.13	83 名
15	伊達市立白根小学校	小5・6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平 27.5.14	5 名
16	本宮市立五百川小学校	小6年、社会	火おこし・弓矢	平 27.5.15	42 名
17	北塩原村立裏磐梯小学校	小6年、社会	火おこし・弓矢	平 27.5.15	9 名
18	郡山市立根本屋小学校	小6年、社会	勾玉・土器さわり	平 27.5.19	9 名
19	二本松市立杉田小学校	小6年、社会	勾玉・土器さわり	平 27.5.20	34 名
20	須賀川市立稲田小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平 27.5.22	41 名
21	小野町立夏井第一小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平 27.5.26	9 名
22	福島市立茂庭小学校	小1・4・5・6年、総合・社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平 27.5.27	7 名
23	いわき市立湯本第二小学校	小6年、社会	勾玉・火おこし	平 27.5.28	28 名
24	県立須賀川養護学校	小3・中1～3、総合・社会	勾玉・土器さわり・火おこし・時代衣装	平 27.6.2	17 名
25	二本松市立旭小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平 27.6.4	12 名
26	二本松市立新殿小学校	小6年、総合・社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平 27.6.4	14 名
27	矢祭町立石井小学校	小6年、総合	土器さわり・火おこし・弓矢	平 27.6.5	14 名
28	川俣町立川俣南小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし	平 27.6.16	23 名
29	二本松市立石井小学校	小6年、総合	勾玉・土器さわり	平 27.6.17	20 名
30	桑折町立伊達崎小学校	小1～6年、生活・総合・社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平 27.6.18	76 名
31	二本松市立原瀬小学校	小6年、社会	勾玉・火おこし・弓矢	平 27.6.24	16 名
32	昭和村立昭和小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平 27.6.25	7 名
33	喜多方市立駒形小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平 27.7.1	11 名
34	県立聾学校会津分校	小3・5年、総合・社会	火おこし	平 27.7.1	2 名
35	伊達市立上保原小学校	小6年、社会	勾玉・土器さわり	平 27.7.7	41 名
36	伊達市立堰本小学校	小6年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平 27.8.26	25 名
37	柳津町立柳津小学校	小6年、社会	勾玉・土器さわり	平 27.9.16	27 名
38	須賀川市立白方小学校	小4～6年、総合・社会	土器さわり・弓矢	平 27.9.18	63 名
39	県立須賀川養護学校医大分校	小1～6年・中1・2年、総合	勾玉	平 27.9.25	11 名
40	本宮市立和田小学校	小6年、社会	土器さわり・弓矢	平 27.9.29	17 名
41	県立平養護学校	小1～6年、総合・社会	勾玉	平 27.11.5	13 名
42	伊達市立伊達東小学校	小6年、社会・図工	勾玉・土器さわり・火おこし	平 27.11.6	37 名
43	県立あぶくま養護学校	中2・3年、社	土器さわり弓矢	平 27.12.2	35 名
44	県立盲学校	小3・5年・中3年・高1～3年、社会	土器さわり・火おこし・弓矢	平 27.12.4	11 名
				合 計	1,185 名

まほろん出前講座

No	団体名	学年・年齢	内 容	実施日	人数
1	須賀川市小塩江公民館	未就学児～中3	勾玉・弓矢	平 27.7.5	15 名
2	二本松市中央公民館	小4～6年	土器さわり・火おこし	平 27.7.11	18 名
3	南会津町奥会津博物館	小5・6年	勾玉	平 27.8.2	23 名
4	須賀川市中央公民館	小1～6年	火おこし・弓矢	平 27.8.22	22 名
5	桑折町中央公民館	小4～6年	土器さわり・火おこし・弓矢	平 27.9.13	11 名
6	小野町ふるさと文化の館	小1～6年	土器さわり・火おこし・弓矢	平 27.11.12	35 名
				合 計	124 名

まるとまほろん

No	団体名	年齢	内 容	実施月日	人数
1	ふくしま海洋科学館	小4～6年	石器づくり体験	平 27.8.20	24 名
2	楽蔵（白河市）	小学生・一般	拓本・缶バッジづくり	平 27.8.22	72 名
3	那須甲子青少年自然の家	小学生・一般	弓矢・土器	平 27.10.4	243 名
4	須賀川市教育委員会	小学生・一般	土器・缶バッジづくり	平 27.10.11	825 名
5	磐梯青少年交流の家	小学生・一般	弓矢	平 27.10.18	156 名
6	大玉村あだたらふるさとホール	小学生・一般	勾玉・土・弓・火・缶バッジづくり	平 27.10.31～11.1	277 名
7	那須高原ビジターセンター	小学生・一般	土・弓	平 27.11.15	233 名
				合 計	1,830 名

3) まるごとまほろん

地域住民を対象とする行事において、当館が收藏する考古資料の展示や体験学習などを行うプログラムである。本年度は、ふくしま海洋科学館、楽蔵、国立那須甲子青少年自然の家、須賀川市教育委員会、国立磐梯青少年交流の家、大玉村あだたらふるさとホール、那須高原ビジターセンターが主催した7箇所のイベントに参加した。



まるごとまほろん

4) ネットでまほろん

遠隔地の学校や障がいを持っているため来館での活動が困難な学校を対象としたプログラムで、当館と会場をインターネット回線によるテレビ電話で結び、授業を行うものである。本年度は、こうした学校に「おでかけまほろん」を実施したので、「ネットでまほろん」の利用はなかった。

5 文化財に関する情報発信

1. ホームページによる情報発信

平成27年度のホームページアクセス数の推移を下表に示した。年間総アクセス数は46,785件であった。東日本大震災の発生後に落ち込んだが、徐々に回復し、平成22年度(46,550件)よりも上回った。

なお、平成13年7月14日のホームページ開設以来の累計アクセス数は、62万件を超えた。

ホームページアクセス数

	月間アクセス数	累計アクセス数
4月	4,223	583,633
5月	4,244	587,877
6月	4,241	592,118
7月	4,345	596,463
8月	4,468	600,931
9月	3,697	604,628
10月	3,831	608,459
11月	3,516	611,975
12月	3,646	615,621
1月	3,242	618,863
2月	3,502	622,365
3月	3,830	626,195
合計	46,785	

2. データベースによる情報提供

(1) アクセス数の推移

平成27年度のアクセス数を下表に示した。平成27年6月27日以降、機器類のセキュリティ対策実施に伴いアクセスを遮断したため、試験アクセスを行った11月と3月を除いて、アクセス数がゼロとなっている。このため、年間の総アクセス数は358,403件で、前年度(805,184件)より大幅減となった。

データベースアクセス数

	総アクセス数	各アクセス数			
		遺跡	遺物	写真	文献
4月	306,957	48,871	218,540	20,313	19,233
5月	29,533	7,198	16,544	1,503	4,288
6月	17,471	3,410	11,325	862	1,874
7月	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0
10月	0	0	0	0	0
11月	114	42	53	18	1
12月	0	0	0	0	0
1月	0	0	0	0	0
2月	0	0	0	0	0
3月	4,328	729	2,167	364	1,068
合計	358,403	60,250	248,629	23,060	26,464

(2) データの入力

新規入力数(テキスト)を別表として示した。合計入力数は2,720件である。

データ入力一覧

種類	入力数	削除数	累計(点)
遺跡(基本データ)	0	0	13,841
遺跡(調査台帳)	0	0	4,416
遺物	2,116	0	255,189
遺物写真	0	0	20,245
写真	604	0	56,746
文献	0	0	18,225
合 計	2,720	0	368,662

3. まほろん通信の発行

平成 27 年度は、4 回発行した。発行日は、4 月 15 日、7 月 1 日、10 月 1 日、1 月 15 日で、各 4,000 部を発行した。概要は、以下のとおりとなっている。

(1) まほろん通信 vol.55 (4 月 15 日発行)

- ・まほろんイベント「第 11 回双六大会」
- ・まほろんイベント(平成 26 年度「まほろん冬まつり」)
- ・体験学習(実技講座「古代の鏡をつくろう」)
- ・平成 26 年度の入館者数
- ・平成 27 年度館長講演会のご案内
- ・5 月のまほろんイベント
- ・まほろんボランティア
- ・まほろんからのお知らせ(まほろんショップからのお知らせ)
- ・今年度の行事予定

(2) まほろん通信 vol.56 (7 月 1 日発行)

- ・平成 27 年度の「おでかけまほろん」
- ・まほろんイベント(「ゴールデンウィークまほろんまつり」の様子)
- ・体験学習(実技講座「家族で土器づくり(初級編)」)
- ・ふくしまデスティネーションキャンペーン(特別メニューが目白押し)
- ・企画展示案内(指定文化財展「奥州藤原氏の時代とふくしま—会津坂下町陣が峯城跡の謎」)
- ・文化財講演会・文化財研修(文化財講演会「出土文字から古代のふくしまを描く」／8・9 月の文化財研修のご案内)
- ・古代の田畑だより
- ・シリーズ収蔵品紹介 20(立ノ沢遺跡出土の大型羽口)

- ・まほろんからのお知らせ(夏のまほろん)

(3) まほろん通信 vo.57 (10 月 1 日発行)

- ・ようこそ まほろんへ!
- ・体験学習(「カラムシから布をつくろう」の様子・「親子で石器をつくろう」の様子・「古代の染色にちょうせん」の様子)
- ・まほろんイベント(「まほろん夏まつり」の様子)
- ・企画展示案内(ふくしま復興展Ⅱ「よみがえる文化財—震災からの救出活動と再生への取り組み—」)
- ・文化財講演会・研修会(企画展示とのコラボレーション・10 月～12 月の研修)
- ・今後のまほろんイベント
- ・シリーズ収蔵品紹介 21(小野町西田 H 遺跡出土の縄文土器)
- ・まほろんショップから

(4) まほろん通信 vol.58 (1 月 15 日発行)

- ・まほろん感謝デー
- ・体験学習(「茶わんづくり」の様子・「古代の印章をつくろう」の様子・「ミニチュア鏡をつくろう」の様子)
- ・第 15 期まほろん森の塾(今年の名場面)
- ・入館者 45 万人達成(入館者 45 万人記念セレモニーの様子)
- ・企画展示案内(コラボ展 まほろん&発掘ガール「猪苗代湖周辺の考古学」・企画展「縄文土器の年代—その古さを読み解く」)
- ・講演会・研修会だより
- ・シリーズ収蔵品紹介 22「郡山市正直 A 遺跡出土の大型土師器壺」)
- ・冬のまほろん



まほろん通信

6 文化財に関する研修事業

1. 研修事業の概要

県内の文化財関係の担当職員や、学校教育で文化財を活用しようとする教職員等を対象として、文化財保護・活用に必要な知識と技能を習得するための研修を行った。

研修は、受講者の習熟度等に応じて、「基礎研修」「専門研修」と、多目的な要望に応えるため臨時に館内や館外で行う「特別研修」に区分して実施した。

(1) 基礎研修

5回の基礎研修を実施した。

①「文化財保護・活用基礎研修」は、文化財保護に必要な調査・保管・活用等に関わる基礎知識についての研修である。今年度は、文化財写真の撮影方法と記録保存法について、当館職員が解説した。

②「考古資料研修」は、白河館で収蔵する考古資料の中で、基準になる資料をもとに、各時代の基礎知識を学ぶ講座である。同時期に開催したふくしま復興展Ⅰ「古代の文字」の関連講座で、当館職員が、古代の文字資料の考え方を講義した。

③「教職員等発掘調査体験研修」は、教職員や文化財を担当する職員等を対象に、例年夏休みの期間に開催しているもので、今回は、須賀川市高木遺跡の発掘調査現場を会場とした。研



考古資料研修

修参加者は、竪穴住居跡の発掘調査の方法を実地で学んだほか、須賀川市立博物館の見学を行った。

④「無形の文化財研修」は、ふくしま復興展Ⅱ「よみがえる文化財」の関連講座とした。無形の文化財の映像記録の撮影や記録について、具体的な手法を紹介し、その課題も解説した。

⑤「地方史研修」は、県内各地の地方史を学ぶ研修である。今回は、関ヶ原合戦があった慶長5年（1600）年の白河地方を舞台として、文献資料や遺跡を正しく評価して歴史を構築していく手法を解説した。地元が舞台だったこともあり、予想を大きく上回る参加者が聴講した。

文化財研修実施状況

区分	研 修 名	講 師	実施日	受講者数	場所
基礎研修	文化財保護・活用基礎研修「文化財写真の保全とデジタル記録管理」	和田伸哉（当館副主任学芸員）	平 27.5.23	15 名	当館
	考古資料研修「土師器の編年と文字資料」	高橋信一（当館専門学芸員）	平 27.7.4	25 名	当館
	教職員等発掘調査体験研修	佐藤啓（当館専門学芸員） 山田英明（当館主任学芸員）ほか	平 27.8.5～7	12 名	須賀川市
	無形の文化財研修「映像記録作成の方法と課題」	大山孝正（当館主任学芸員）	平 27.12.5	13 名	当館
	地方史研修「遺跡と史料にみる慶長五年の白河」	本間宏（当館学芸課長）	平 28.2.20	112 名	当館
専門研修	考古学専門研修「縄文時代の北緯 40 度」	富樫泰時（秋田県文化財保護審議会会長）	平 27.9.26	28 名	当館
	文化財保護指導者研修会	鈴木功（白河市建設部） 菅野和博（須賀川市教育委員会）ほか	平 27.10.22 ～ 23	延べ 139 名	白河市
	文化財保護・活用専門研修「文化財の保全と記録技術」	赤沼英男（岩手県立博物館）	平 27.11.7	16 名	当館
	文化財と関連科学「縄文早・前期土器群と AMS 年代測定」	早瀬亮介（加速器分析研究所）	平 28.1.23	15 名	当館
特別研修	臨時館内研修「文化財保全ワークショップ」	中尾真梨子（福島県文化振興財団） 山本友紀（当館学芸員）ほか	平 27.6.20	11 名	当館
	職員派遣研修 福島県立図書館「会津盆地の弥生時代」	佐藤啓（当館学芸員）	平 27.6.21	42 名	福島市
	職員派遣研修 泉崎村中央公民館「古代の泉崎」	和田伸哉（当館学芸員）	平 27.8.28	9 名	泉崎村
	職員派遣研修 駒形集会所「考古学調査から見た平田村」	高橋信一（当館専門学芸員）	平 28.1.26	26 名	平田村
	職員派遣研修 古殿町公民館「県南地方の縄文文化について」	國井秀紀（当館専門学芸員）	平 28.3.16	19 名	古殿町

(2) 専門研修

4回の専門研修を実施した。

①「考古学専門研修」は、秋田県文化財保護審議会会長の富樫泰時氏が、北緯 40 度を境界にして、異なる縄文時代の地域性を解説した。また、この違いを定住性に伴う地域性の発生に求め、これが弥生時代以降古代まで引き継がれていくという指摘もなされた。

②「文化財保護指導者研修会」は、市町村の文化財保護審議委員等を対象として毎年会場を変えて行う研修会である。

平成 27 年度は、開催日を 10 月に変更して、当館及び白河市内の施設と小峰城跡を会場として実施した。東日本大震災による被災状況と被災文化財等の保全活動について、白河市建設部都市政策室の鈴木功氏・須賀川市教育委員会の管野和博氏らが講義を行った。また、当館で開催していた「よみがえる文化財」と白河市小峰城跡の復旧状況を見学した。

③文化財保護・活用専門研修は、文化財の保全・修復技術と処置記録の作成方法について学ぶことを目的に実施している。東日本大震災により被災した岩手県の文化財について、修復の最先端で活躍する岩手県立博物館の赤沼英男氏がその具体事例を紹介した。

④文化財と関連科学研修は、考古資料の分析や保存などに関する科学的知識を学ぶ研修である。放射性炭素年代測定を利用した縄文土器の年代観などを(株)加速器分析研究所の早瀬亮介氏が解説した。



考古学専門研修

(3) 特別研修

上記の研修のほか、別表に示した特別研修を 5 回実施した。

「文化財保全ワークショップ」は、東日本大震災で被災した文化財の保全方法を、実習を交えながら学ぶ研修で、資料の放射線量の測定と記録、虫菌害への対処法、海水損資料の安定化処理法を、当館及び当財団職員が解説した。

職員派遣研修は、市町村等の要請に応じて随時職員を派遣し、体験学習支援や地域史理解などに関する研修を行なうものである。

7 文化財の活用に関する調査研究

1. 放射性炭素年代測定と炭素窒素安定同位体比分析

白河館に収蔵されている土器に付着した炭化物について、加速器質量分析による放射性炭素年代測定を実施して、その年代的 위치を明らかにし、測定年代の補正に必要な炭素・窒素安定同位体比分析も併せて実施する事業である。

分析は、平成 26 年度から平成 30 年度までの 5 箇年度継続して行うこととし、平成 27 年度はその 2 年目となる。前年度の成果を受けて、縄文時代早期初頭から前期前葉の土器 40 点について、付着炭化物の分析を実施した。

分析結果については、「福島県文化財センター白河館研究紀要 2015」に、平成 26 年度分も含めて掲載するとともに、収蔵資料展「縄文土器の年代—その古さを読み解く—」を開催し、その成果を公開した。



放射性炭素年代測定試料の採取

2. 研究紀要

専門職員が行なう館業務の過程での研究や、収蔵資料に関することなどの調査研究の成果を「研究紀要 2015」に掲載し、発行した。

8 ボランティアの運営

1. 募集

平成27年度は、新しい「まほろんボランティア」の募集を随時行った。

申し込み資格は、①平成27年4月1日現在で18歳以上（高校生は除く）、②無償で活動できる方（保険料は当館負担）、③毎月2日間以上（1日2時間程度）活動できる方である。

2. 登録

白河館に登録するボランティアの名称を『まほろんボランティア』と呼び、登録形態は「個人登録ボランティア」とする。個人登録ボランティアの登録状況は別表のとおりである。

まほろんボランティア登録状況

平成27年度登録者数	22名 (男性11名・女性11名)
内訳	
1. 最年長	87歳
2. 最年少	19歳
3. 平均年齢	66歳 (男70歳、女61歳) (平成28年3月31日現在)

3. 活動内容

主な活動内容は以下のとおりである。

- 屋内展示、野外展示の案内・解説
- 体験学習（実技講座・団体等）の支援
- イベントの支援
- 体験学習器材の製作
- 野外展示の火焚き管理
- まほろんオリエンテーリング
- 植物観察ツアー

4. 受け入れ体制

白河館のボランティア活動は、昼食や交通費を支給しない無償・無給制を原則とする。しかし、活動中の事故等を補償するボランティア保険の加入、ユニフォームの貸与、休息室の確保、

各種研修の実施など、活動環境の整備を図っている。

また、学芸課に3名のボランティア担当者を配置し、館側とのスケジュールや活動内容の調整を行っている。意見交換の場として、4月11日（土）、10月17日（土）、3月12日（土）にまほろんボランティア連絡会を開催した。



野外展示の火焚き管理

9 その他

1. 年報2015の発行

当館の平成26年度1年間の活動をまとめた年報を作成し、市町村教育委員会や学校等の関係機関に送付した。

2. 運営協議会の開催

福島県文化財センター白河館運営協議会は、館長の諮問機関であり、会議を年2回開催している。

なお、平成27年度の委員6名は次のとおり。

- ・藤沼 邦彦：元弘前大学教授、再任
- ・日下部善己：元二本松市立岳下小学校長、再任
- ・平出美穂子：元郡山女子大学准教授、再任
- ・箭内 清和：西白河小中学校長連合協議会長
- ・和知 延：元白河市文化財保護審議会委員、再任
- ・新山 雄次：国立那須甲子青少年自然の家所長、再任

(1) 第1回運営協議会

日程：平成27年10月3日(土)

場所：会議室

議事

- ・平成26年度白河館の事業実績について
- ・平成27年度白河館の事業について
- ・平成26年度来館者アンケートの結果について
- ・その他

(2) 第2回運営協議会

日程：平成28年3月12日(土)

場所：会議室

議事

- ・平成27年度白河館の運営状況について
- ・平成28年度白河館の事業について
- ・その他

3. 博物館学学外実習

県内の大学生、県内出身者で県外の大学に通う大学生を対象として、白河館内において博物館実習を行った。

4. 被災ミュージアム再興事業

福島県教育委員会からの委託事業として、被災ミュージアム再興事業を実施した。

原子力災害によって帰還困難区域・居住制限区域となっている双葉郡内の資料館の文化財等を、白河館に設置された仮保管施設に移送して整理・データベース化・保全作業を行い、安定した収蔵環境を維持した上で資料を保管する作業を実施した。

5. 他機関との連携

自治体・教育普及機関・研究機関と連携して、以下の事業を実施した。

(1) ふくしまデスティネーションキャンペーンへの参加

1) 写真展「まほろん花めぐり」

白河館プロムナードギャラリーにおいて、平成27年4月1日(水)～6月30日(火)の会期で、白河館の敷地内に自生する花の写真展を実施した。

2) 『福が満開、福のしま。フェスタ2015』

福島競馬場(福島市)において、平成27年5月23日(土)・24日(日)の会期で、まほろんのPRブースを出展した。



『福が満開、福のしま。フェスタ2015』

(2) 福島県立図書館との連携

1) まほろん移動展

「磐越自動車道の遺跡—会津盆地の弥生時代—」

会期：平成27年6月5日(金)～7月1日(水)

(開催日数23日間)

場所：福島県立図書館(福島市) エントランス
展示コーナー

観覧者数：2,094名



まほろん移動展

2) 移動図書館(あづま号)コーナーの設置

実施日：平成28年2月14日(日)「まほろん冬まつり」

場所：白河館正面玄関前

(3) 福島海洋科学館（アクアマリンふくしま）との連携

1) 移動水族館（アクアラバン）開催

実施日：平成27年12月6日（日）「まほろん感謝デー」

場所：白河館正面玄関前

2) 石器づくり体験講座の講師派遣

実施日：平成27年8月20日（木）

場所：福島海洋科学館（いわき市）



移動水族館（アクアラバン）

(5) その他

国立那須甲子青少年自然の家・国立磐梯青少年交流の家・那須高原ビジターセンターと連携し、イベント実施時に相互に体験ブースを設置した。

また、福島県被災文化財等救援本部による被災文化財保護活動に参画した。

(4) 郡山女子大学との連携

コラボ展まほろん＆発掘ガール「猪苗代湖周辺の考古学」

会期：平成28年1月9日（土）～2月14日（日）
（開催日数23日間）

場所：白河館特別展示室

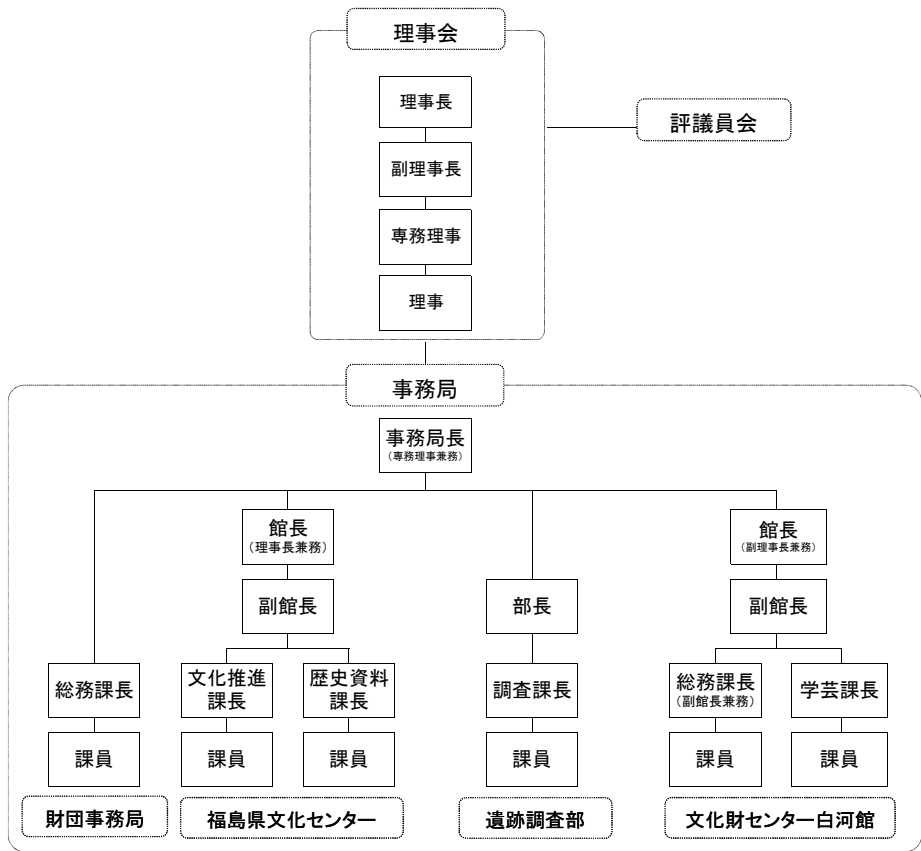
観覧者数：2,200名



コラボ展まほろん＆発掘ガール
「猪苗代湖周辺の考古学」展示解説会

第3章 平成27年度の組織と管理運営費

1 組織



職員名簿

職 名		氏 名		職 名		氏 名	
館 長		菊 池 徹 夫		学芸課	主任学芸員	國 井 秀 紀	
副 館 長		野 川 清 和			主任学芸員	三 浦 武 司	
総務課	課長(兼務)	野 川 清 和			主任学芸員	山 田 英 明	
	副 主 幹	鈴 木 智 子			副主任学芸員	和 田 伸 哉	
	主 査	佐 藤 貴 司			学芸員	山 本 友 紀	
	事務補助員	鈴 木 智 子			学芸員	柿 沼 梨 沙	
	物品販売補助員	金 澤 明 希			嘱 託	山 内 幹 夫	
	課 長	本 間 宏			嘱 託	芳 賀 英 一	
学芸課	主 幹	吉 田 功			アテンダント	佐 藤 あかね	
	副 主 幹	香 川 愼 一			アテンダント	河 西 久 子	
	専門学芸員	高 橋 信 一			アテンダント	独 鈷 亜由美	
	専門学芸員	佐 藤 啓			アテンダント	高 木 茜 音	
	専門学芸員	大 山 孝 正			アテンダント	渡 邊 あかり	
	専門学芸員	笠 井 崇 吉			職員総数26名		

(平成28年3月31日現在)

2 管理運営費

・指定管理者委託料 240,080 千円

第4章 まほろん施設の概要

施設名：福島県文化財センター白河館

(愛称：まほろん)

所在地：〒961-0835

福島県白河市白坂字一里段 86 番地

設置者：福島県

開館：平成 13 年 7 月 15 日

管理機関：公益財団法人福島県文化振興財団

◎建築概要

1. 敷地面積：51,827.51㎡
2. 建築面積：本館・収蔵庫棟 5,866.328㎡
体験学習館 133.627㎡
3. 延床面積：本館・収蔵庫棟 5,399.815㎡
(本館 2,400.046㎡、収蔵庫棟 2,999.769㎡)
体験学習館 92.71㎡
4. 構造
 - ①本館棟 鉄筋コンクリート造
 - ②収蔵庫棟 鉄骨造
 - ③体験学習館 木造
5. 駐車台数等
 - ①一般駐車場 91 台 (うち身障者用 4 台)
 - ②大型車駐車場 10 台
 - ③職員駐車場 21 台
 - ④駐輪場 28 台
6. 地域地区：都市計画区域内、無指定

◎設備概要

1. 電気設備：
 - ・受電方式／高圧 6.6KV 1 回線受電、変圧器容量／400KVA、予備電源／非常発電 50KVA
 - ・非常照明設備：建築基準法に基づいて設置
 - ・放送設備：非常放送と兼用、出力 240W
 - ・電気時計設備、テレビ共同視聴設備、インターホン設備
 - ・電話設備：電子交換機、外線 4 回線、内線 55 回線
 - ・監視設備：分散型総合管理システムにより、受電設備・防災設備・空調設備を遠隔発停制御及び計測監視

2. 空調設備

・空調方式

一般系統／ガスエンジン空冷 HP マルチパッケージ方式 (一部空冷 HP) + 静止型全熱交換器、特別収蔵庫系統／単一ダクト (空冷冷専パッケージ + 電気ヒーター + アルカリ除去フィルターユニット) 方式、常設展示室・特別展示室／単一ダクト (ガスエンジン HPP) 方式

3. 衛生設備

- ・給排水設備：給水／水道直結方式、給湯／局所式、排水／汚水・雑排水；屋内分流・屋外合流 (最終枳でポンプアップ) 方式で下水道本管へ放流
- ・雨水：側溝放流
- ・多目的便所：屋内 1 箇所 (男女別)、屋外 1 箇所 (男女別)、トイレ呼出設備付

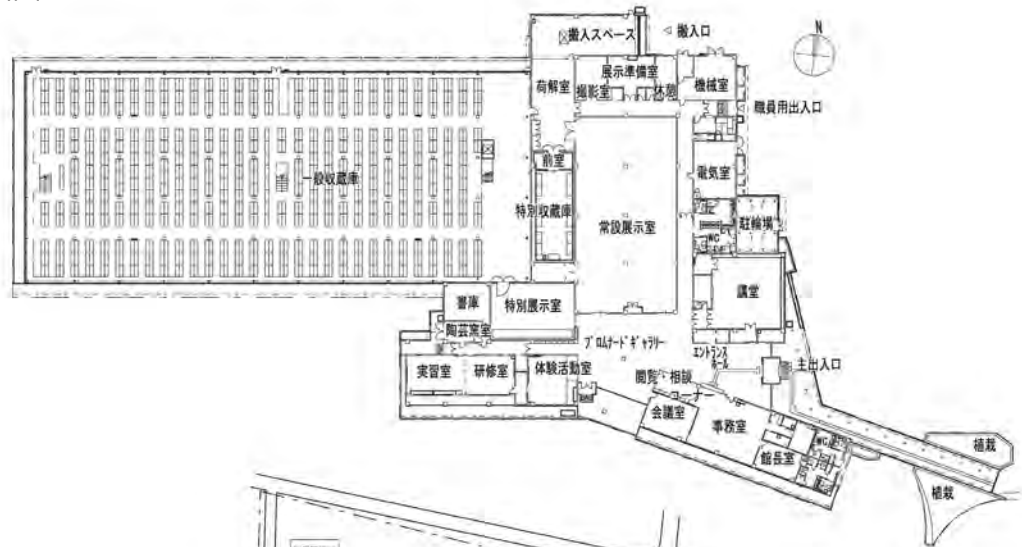
◎建築工事工期

- ・着工：平成 11 年 7 月 12 日
- ・完成：平成 12 年 10 月 16 日

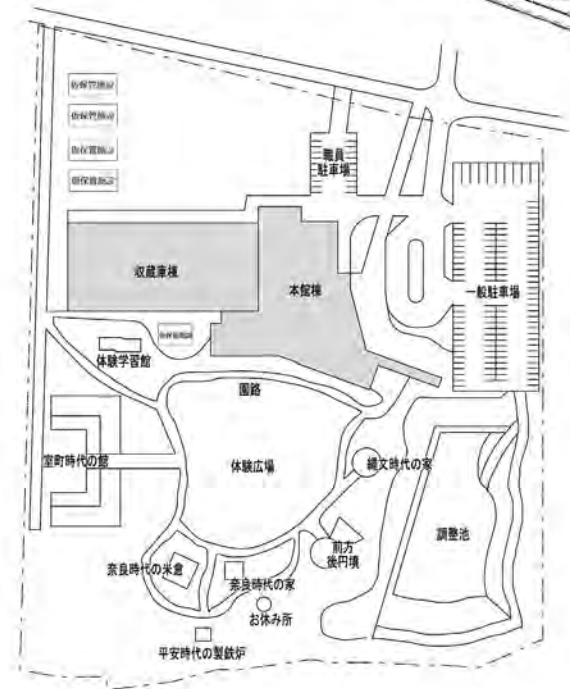
◎総建設費 3,300,625 千円

- ・内訳 建築費 2,690,848 千円
- 公有財産購入費 222,095 千円
- その他の経費 387,682 千円

白河館平面図



白河館配置図



主要諸室面積表（㎡）

室名	面積	備考	室名	面積	備考
常設展示室	510		書庫	53	
特別展示室	126		搬入スペース	115	
講堂	143		荷解室	103	
研修室	51		特別収蔵庫	104	
実習室	61		特別収蔵庫前室	21	
体験活動室	64		一般収蔵庫	2,761	積層棚 2 層目部分 2,263㎡
陶芸窯室	16		警備員室	22	
閲覧・相談コーナー	25		休憩室	25	
エントランスホール・プロムナードギャラリー	390		展示準備室	43	
事務室	104		撮影室	39	
会議室	47		その他	516	
館長室	36		合計	5,400	
印刷室	16		体験学習館	93	
救護室	9		仮保管施設	889	5 棟（194㎡× 4 棟+ 113㎡）

第5章 まほろんの条例・規則

1 福島県文化財センター白河館条例

(平成13年3月27日 福島県条例第43号)

(設置)

第一条 地方自治法(昭和二十二年法律第六十七号)第二百四十四条第一項の規定に基づき、文化財等を保管し、又は活用することにより、県民の文化の振興に資するため、福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)を設置する。

(位置)

第二条 白河館は、白河市白坂字一里段八十六番地に置く。
(平一八条例五一・一部改正)

(業務)

第三条 白河館において行う業務は、次のとおりとする。
一 考古資料の保管及び展示、考古資料以外の文化財の展示並びに文化財に関する資料の保管及び展示に関すること。

二 文化財に関する講演会、講習会等の開催に関すること。
三 文化財等を活用した体験学習の実施に関すること。
四 文化財に関する情報の収集及び提供に関すること。
五 文化財に関する調査、研究を担当する市町村等の職員の研修に関すること。
六 考古資料の保管及び文化財の活用に関する専門的又は技術的な調査研究に関すること。
七 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務に関すること。

(指定管理者による管理)

第四条 白河館の管理は、福島県公の施設の指定管理者の指定の手続等に関する条例(平成十六年福島県条例第六十八号)の定めるところにより教育委員会が指定した法人その他の団体(以下「指定管理者」という。)に行わせるものとする。

(平一七条例一〇七・追加)

(指定管理者が行う業務の範囲等)

第五条 指定管理者が行う業務は、次のとおりとする。

一 第三条各号に掲げる業務に関すること。
二 白河館の維持管理に関すること。
三 前二号に掲げるもののほか、教育委員会が別に定める業務に関すること。
2 指定管理者は、業務の遂行に当たっては、県民の平等な利用を確保しなければならない。
3 指定管理者は、業務の遂行上知り得た個人情報(個人に関する情報であって、特定の個人が識別され、又は識別され得るものをいう。)その他の情報を適切に取り扱わなければならない。

(平一七条例一〇七・追加)

(遵守事項)

第六条 白河館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

一 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
二 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
三 館内において、展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)

四 所定の場所以外の場所において、喫煙又は飲食を行わないこと。

五 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。

六 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(平一七条例一〇七・旧第四条繰下)

(入館の規制等)

第七条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

一 前条の規定に違反した者

二 白河館の施設、附属設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者

三 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(平一七条例一〇七・旧第五条繰下・一部改正)

(使用料の不徴収)

第八条 白河館の使用料は、徴収しない。

(平一七条例一〇七・旧第六条繰下)

(委任)

第九条 この条例に定めるもののほか、白河館の管理その他この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

(平一七条例一〇七・旧第八条繰下)

附 則

この条例は、教育委員会規則で定める日から施行する。

(平成一三年教委規則第一六号で平成一三年七月一五日から施行)

附 則(平成一七条例一〇七号)

1 この条例は、平成一八年四月一日から施行する。

2 改正後の福島県文化財センター白河館条例第四条の規定による指定管理者の指定の手続は、この条例の施行の日前においても行うことができる。

附 則(平成一八条例第五一号)

この条例は、公布の日から施行する。

2 福島県文化財センター白河館条例施行規則

(平成13年3月27日 福島県教育委員会規則第3号)

(休館日)

第一条 福島県文化財センター白河館(以下「白河館」という。)の定期の休館日は、次のとおりとする。

一 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和二十三年法律第七十八号)第三条に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときを除く。

二 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。

三 一月一日から同月四日まで及び十二月二十八日から同月三十一日まで

2 指定管理者(福島県文化財センター白河館条例(平成十三年福島県条例第四十三号)第四条に規定する指定管理者をいう。以下同じ。)は、必要があると認めるときは、あらかじめ福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)の承認を得て、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(開館時間)

第二条 白河館の開館時間は、午前九時三十分から午後五時までとする。ただし、指定管理者は、必要があると認めるときは、あらかじめ教育長の承認を得て、これを臨時に変更することができる。

(平一七教委規則一六・一部改正)

(文化財等の特別利用)

第三条 白河館が保管している文化財等を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、教育長の承認を受けなければならない。

(委 任)

第四条 この規則に定めるもののほか、白河館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、福島県文化財センター白河館条例（平成十三年福島県条例第四十三号）の施行の日から施行する。

(施行の日＝平成一三年七月一五日)

附 則（平成一七年教委規則第一六号）

この規則は、平成十八年四月一日から施行する

まほろんの利用案内

開館時間 ・ 午前9時30分～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休 館 日 ・ 毎週月曜日（国民の祝日の場合はその翌日、GW・夏休み期間中は開館）
・ 国民の祝日の翌日（ただし土・日にあたる場合は開館）
・ 年末年始（12月28日～1月4日）

入 館 料 ・ 無料

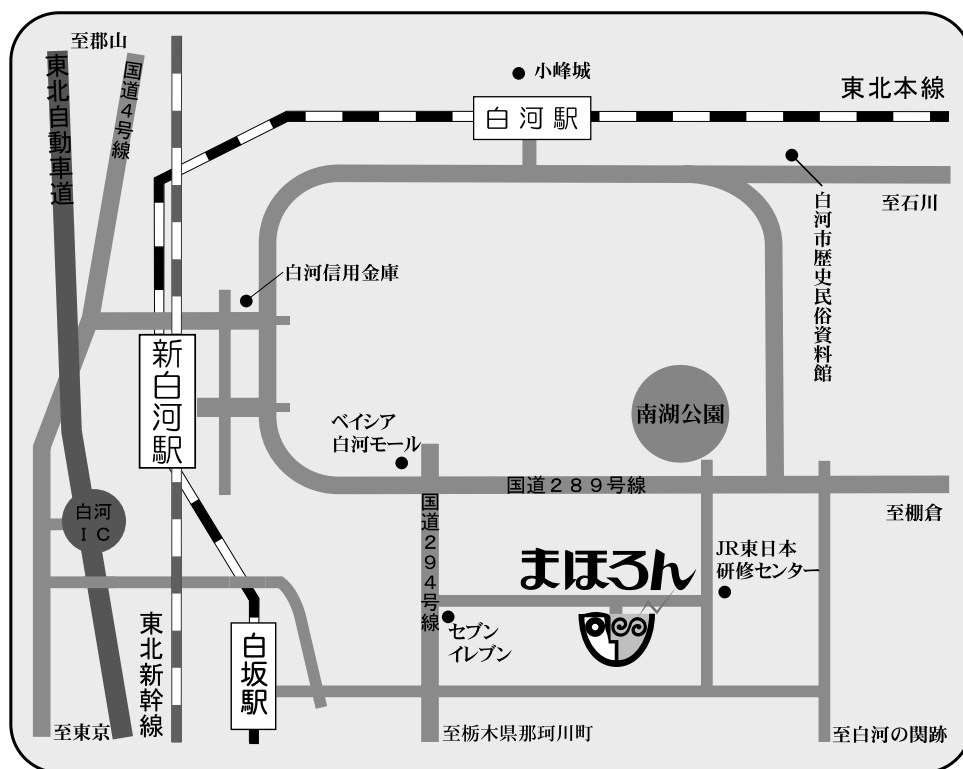
交通案内 ・ J R 東北本線白河駅、J R 東北新幹線新白河駅から白河市循環バスまほろんバス停下車

・ J R 東北本線白河駅、J R 東北新幹線新白河駅から福島交通バス（白坂駅経由白坂・白坂駅行き）まほろんバス停下車

・ J R 東北本線白河駅、J R 東北新幹線新白河駅から J R バス（棚倉行き）南湖公園下車徒歩 25 分

・ 東北自動車道白河 I.C. から車 20 分

そ の 他 ・ 屋内、屋外に多目的トイレを備えています。車いす、ベビーカーも用意しています。



福島県文化財センター白河館

年報 2016

平成 28 年 9 月 23 日発行

編集・発行 公益財団法人福島県文化振興財団
福島県文化財センター白河館

〒 961-0835 福島県白河市白坂一里段 86 番地
TEL 0248-21-0700 FAX 0248-21-1075
<http://www.mahoron.fks.ed.jp>
